

令和 6 年度調査

**地域福祉の推進に向けた
青森県民の意識に関するアンケート調査
結果報告（概要版）**

令和 7 年 9 月

青森県健康医療福祉部
健康医療福祉政策課

◆ 調査の趣旨

青森県地域福祉支援計画（第3次）の基本目標に係るアウトカム指標の調査分析及び評価のための基礎資料を得ることを目的とする。

◆ 調査概要

	今 回（第3次改定）	前 回（第2次改定）
調査対象	県内在住 <u>20歳以上の男女1,000人ずつ計2,000人</u>	
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	
調査方法	回答依頼文郵送による配布・ <u>ウェブ回答</u>	質問紙郵送による配布・回収
調査時期	令和6年10月2日～10月21日	令和元年11月1日～11月30日
有効回答数・率	454人（22.7%）	1,037人（51.9%）
調査項目	※調査項目は前回（令和元年度）実施した調査項目の一部を見直して実施 1 住民意識の向上 （1）地域との関わり （2）地域の支え合いに関する考え （3）ボランティア活動 （4）相談窓口 2 地域環境の変化 （1）福祉に関する情報・今後の地域福祉のあり方	1 住民意識の向上 （1）地域との関わり （2）地域の支え合いに関する考え （3）相談窓口 （4）福祉教育に関する考え （5）社会福祉法人や社会福祉協議会との関わり （6）ボランティア活動 2 地域環境の変化 （1）福祉サービスにおける権利擁護 （2）福祉・介護人材の確保育成 （3）外出時の交通手段 （4）福祉に関する情報・今後の地域福祉のあり方

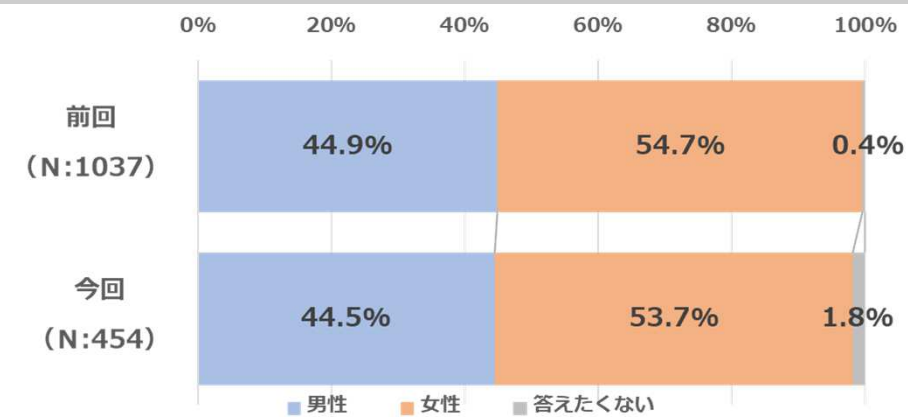
地域福祉の推進に向けたアンケート調査

◆ 調査項目

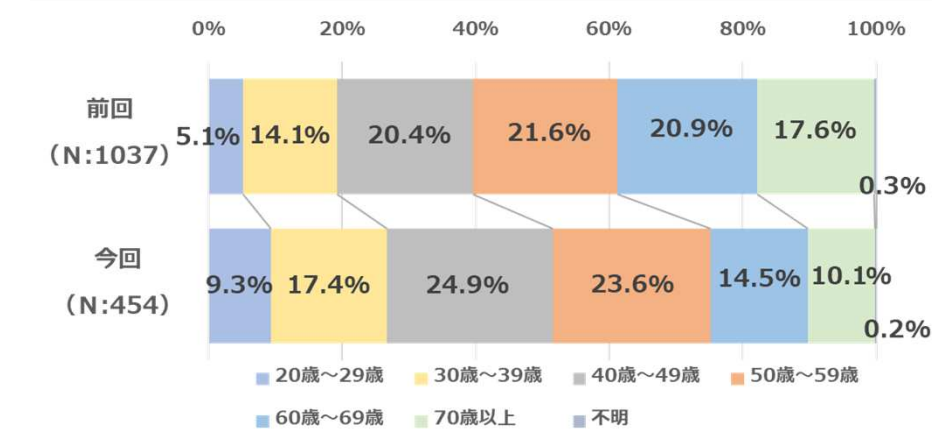
項目	調査対象	調査のねらい	調査項目	主な設問
基本情報				① 性別 ② 年齢 ③ 居住市町村 ④ 家族構成
1 住民意識 の向上	一般県民	「我が事・丸ごと」の地域づくり推進のために、住民同士あるいは住民が専門機関等と協働して、身近な課題を解決する体制の構築に向けて、現在の活動の状況や活動に対する意識を調査する。	(1) 地域との関わり	⑤ 地域付き合いの程度 ⑥ 地域活動への参加状況 ⑥-1 参加している地域活動・⑥-2 参加しない理由
			(2) 地域の支え合いに関する考え	⑦ 困っていることや不安なことへの相談先 ⑦-1 「相談しない」場合の理由 ⑧ 困った時に頼れる人 ⑧-1 困った時に頼る相手 ⑨ 孤独と感じる程度 ⑩ 隣近所の困っている人に手助けできること・隣近所の人に手助けしてほしいこと ⑪ 地域の交流の場 ⑪-1 地域の交流の場の利用状況
			(3) ボランティア活動	⑫ ボランティアの参加状況 ⑫-1 ボランティアへ参加したきっかけ
			(4) 相談窓口	⑬ 知っている相談窓口
2 地域環境 の変化	一般県民	高齢化や地域福祉をめぐる環境の変化を踏まえた施策の見直し等を行うために、地域環境の変化に伴う県民の生活の状況や意識を調査する。	(5) 福祉に関する情報・今後の地域福祉のあり方	⑭ 福祉に関する情報の入手先 ⑮ 知りたい福祉や健康の情報 ⑯ 地域における福祉サービス提供体制の状況 ⑰ 住み慣れた地域で安心して生活するために必要なこと

◆ 調査結果 【基本情報】

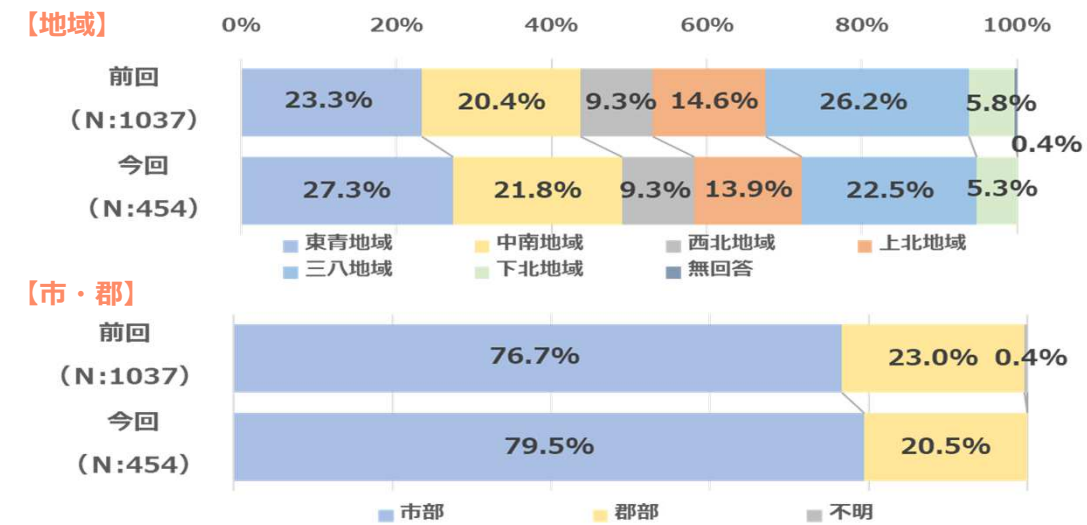
① 性別



② 年齢



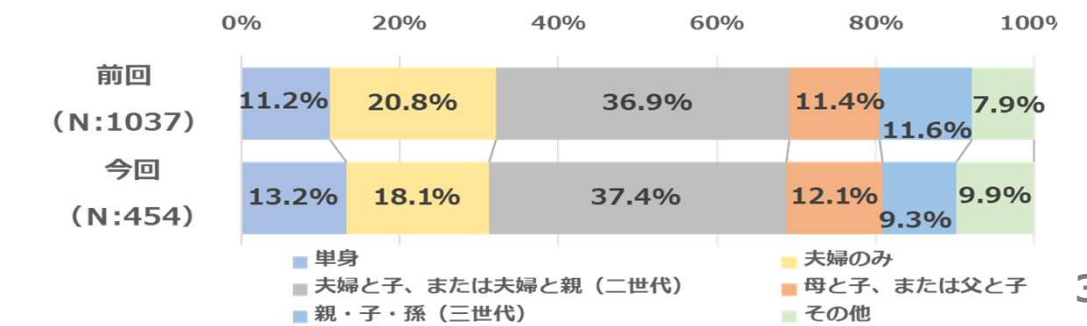
③ 地域



【市・郡】



④ 家族構成

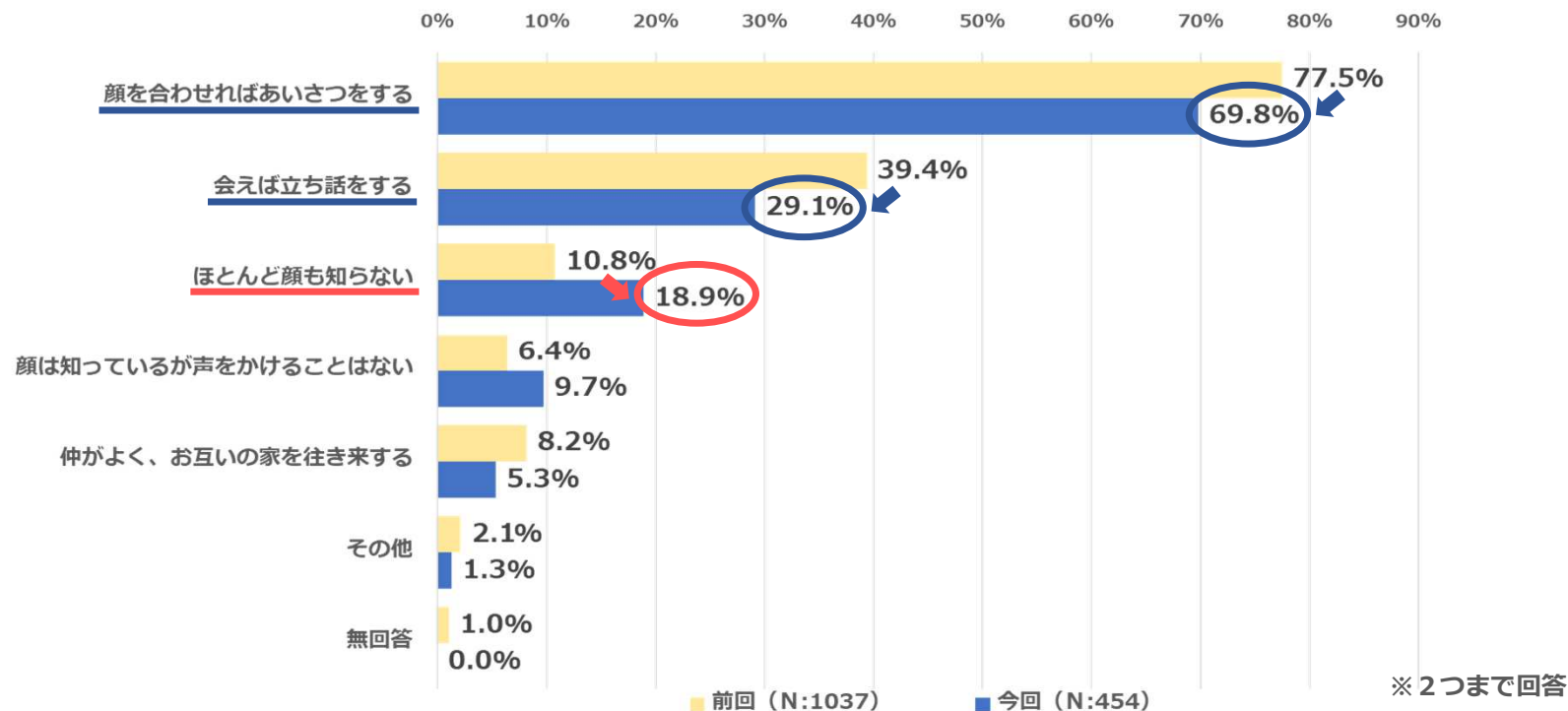


地域福祉の推進に向けたアンケート調査

◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (1) 地域との関わり

⑤ 地域付き合いの程度

- ◆ 人との付き合い方は、前回同様、「顔を合わせればあいさつをする」、「会えば立ち話をする」「ほとんど顔を知らない」の順
- ◆ 「顔を合わせればあいさつをする」は前回に比べ7.7ポイント減少、「会えば立ち話をする」は10.3ポイント減少、「ほとんど顔も知らない」は前回に比べ8.1ポイント上昇

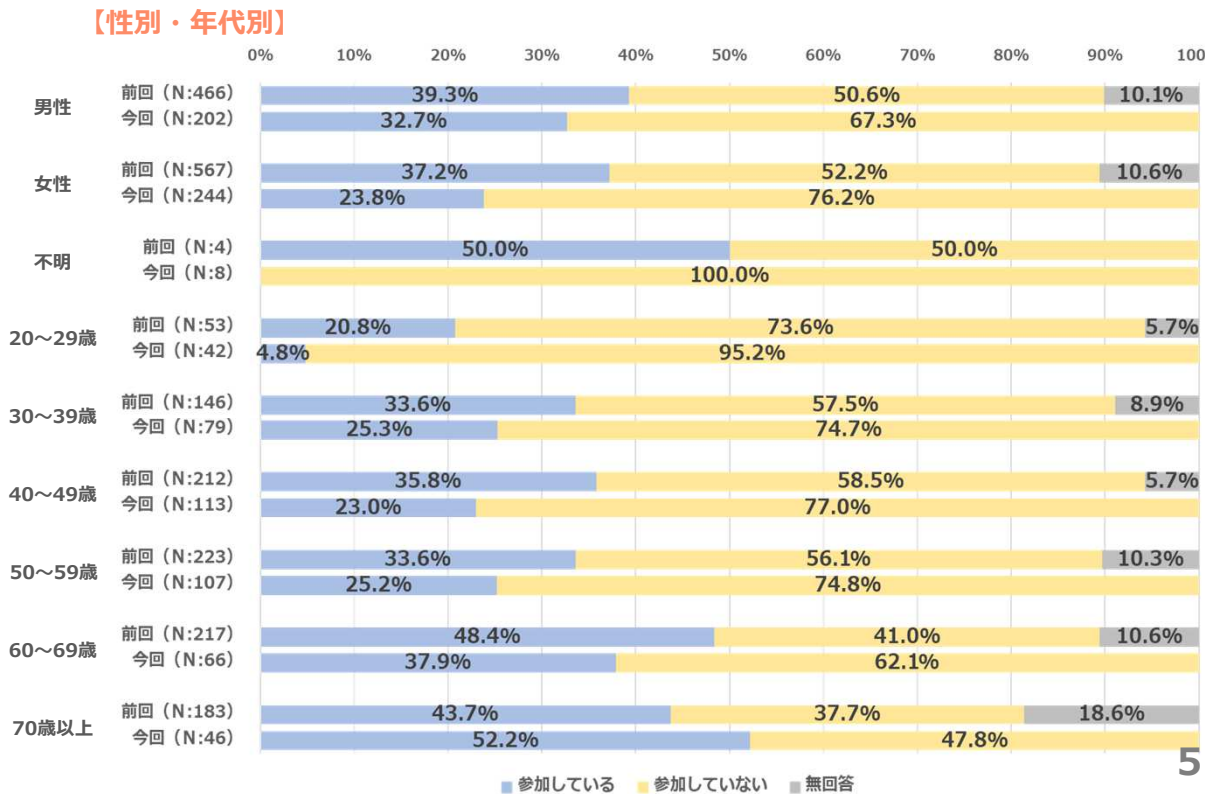
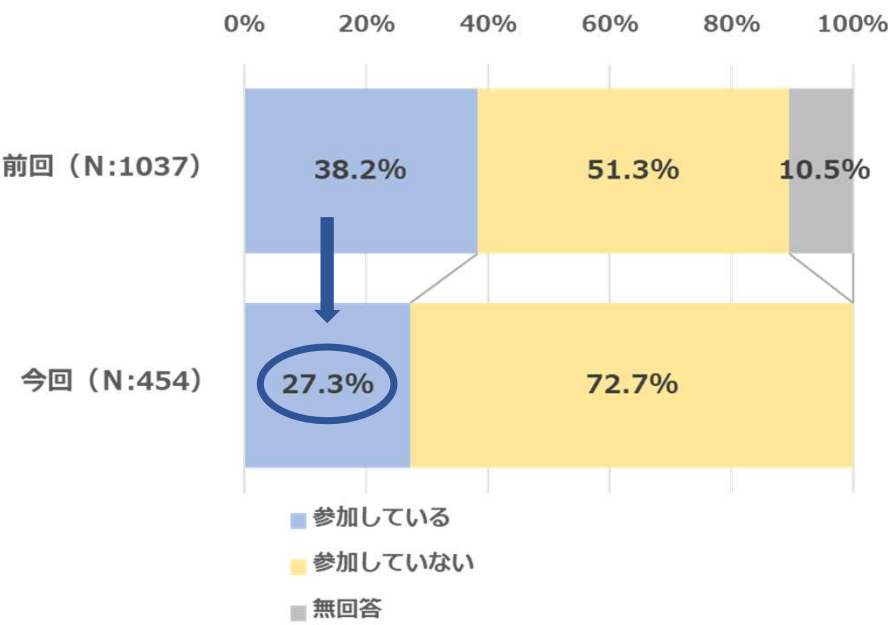


地域福祉の推進に向けたアンケート調査

◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (1) 地域との関わり

⑥ 地域活動への参加状況

- ◆ 地域活動への参加状況は前回に比べ10.9ポイント減少
- ◆ 性別・年代別に見ると、すべての区分において「地域活動に参加していない」割合が上昇

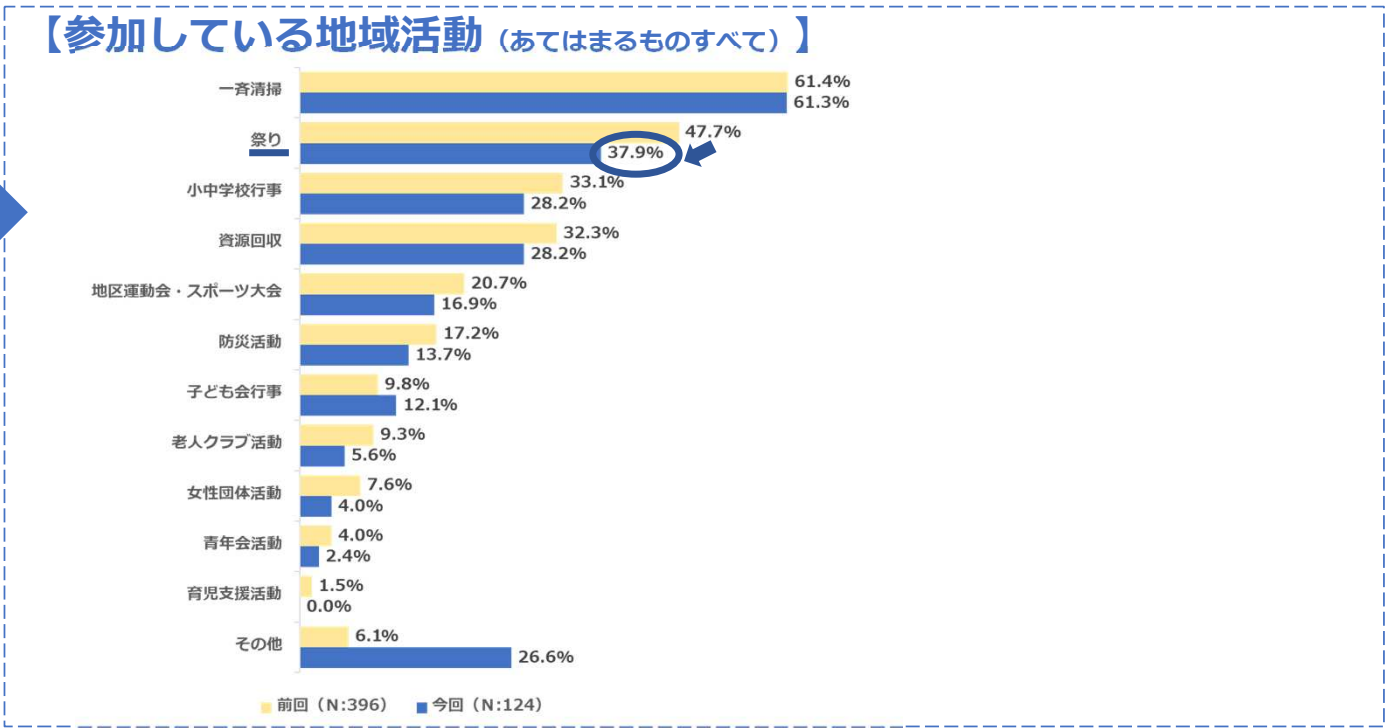
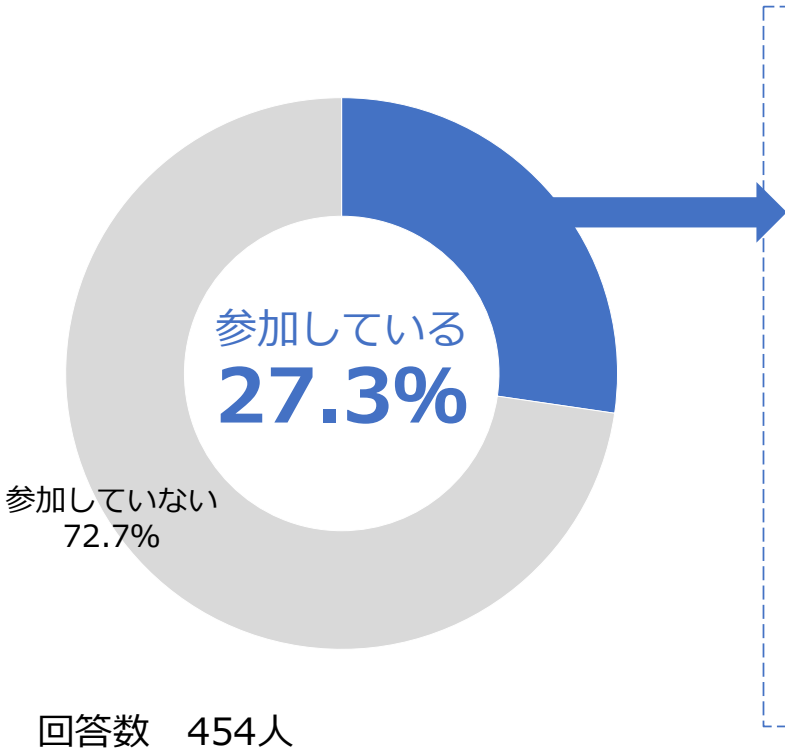


地域福祉の推進に向けたアンケート調査

◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (1) 地域との関わり

⑥- 1 参加している地域活動

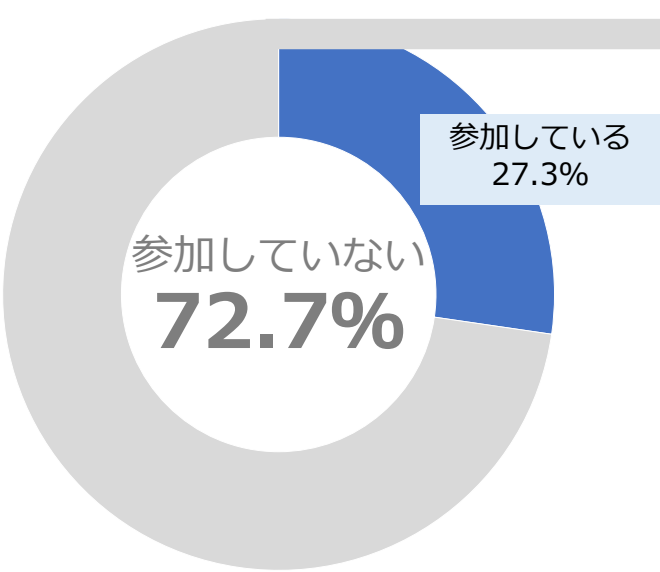
- ◆ 参加している地域活動は「一斉清掃」が最も多く、次いで「祭り」、「小中学校行事」、「資源回収」であり前回と同様
- ◆ 「祭り」に参加している割合は、前回に比べ9.8ポイント減少



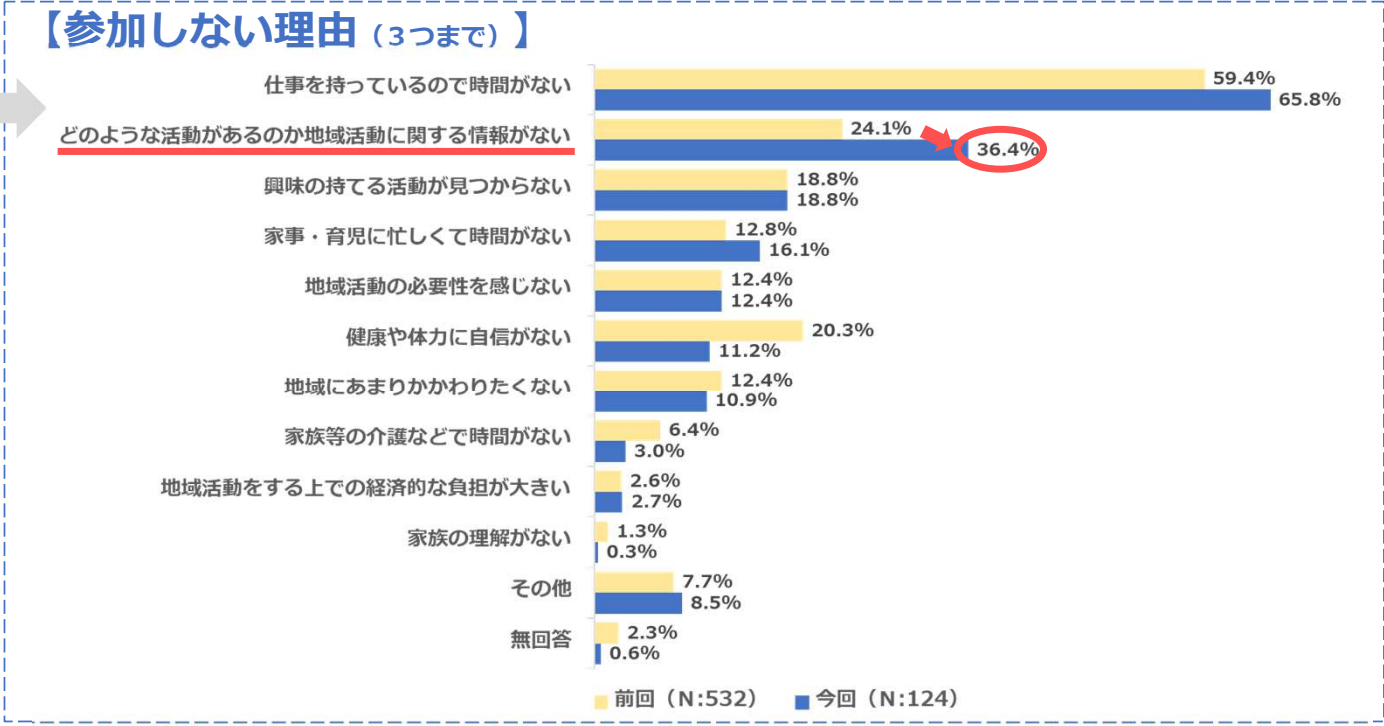
◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (1) 地域との関わり

⑥- 2 地域活動に参加していない理由

- ◆ 地域活動に参加していない理由は前回と同様「**仕事を持っているので時間がない**」が最も多く、次いで「どのような活動があるのか地域活動に関する情報がない」、「興味の持てる活動が見つからない」となっている
- ◆ 「どのような活動があるのか地域活動に関する情報がない」と回答した割合は、前回に比べ**12.3ポイント**上昇



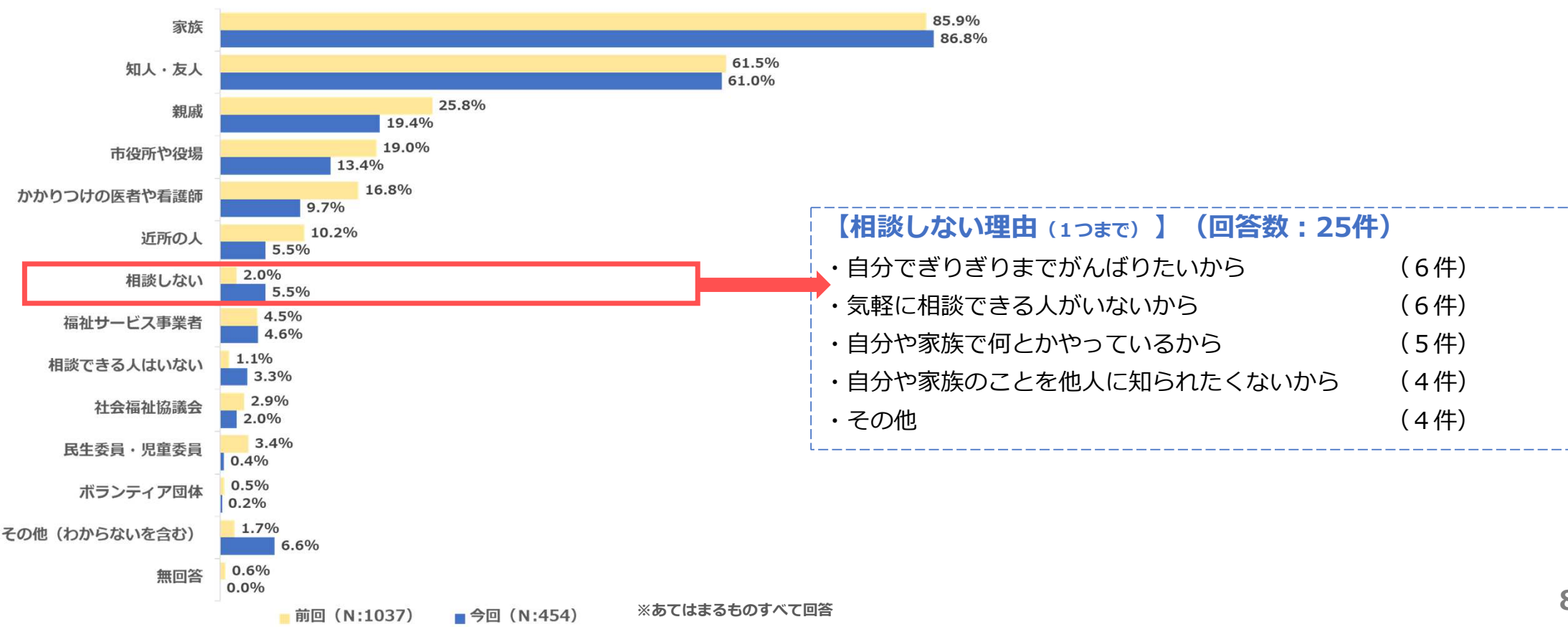
回答数 454人



◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (2) 地域の支え合いに関する考え

⑦困っていることや不安なことへの相談先 ⑦-1「相談しない」場合の理由

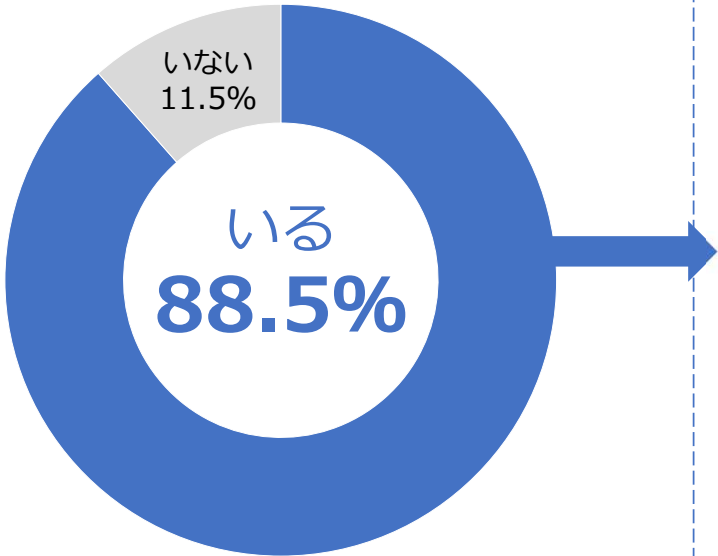
◆相談先は前回同様、「**家族**」が最も多く、次いで「知人・友人」、「親戚」、「市役所や役場」となっている



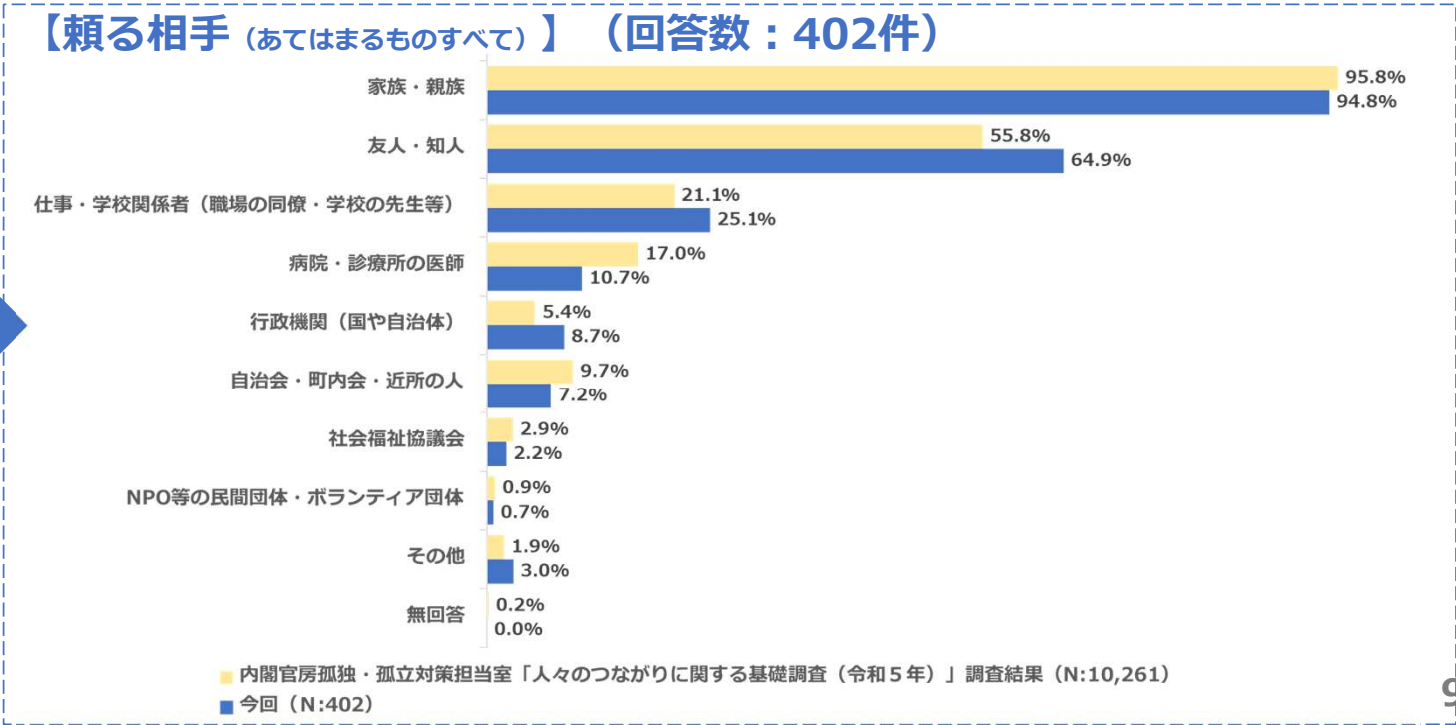
◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (2) 地域の支え合いに関する考え

⑧ 困った時に頼れる人 ⑧-1 困った時に頼る相手

- ◆ **9割近くの方々**が困った時に頼れる人がある
- ◆ 困った時に頼れる相手は、**「家族・親族」**が最も多く、次いで「友人・知人」、「仕事・学校関係者」となっており、内閣官房孤独・孤立対策担当室「人々のつながりに関する基礎調査（令和5年）」と同様の傾向



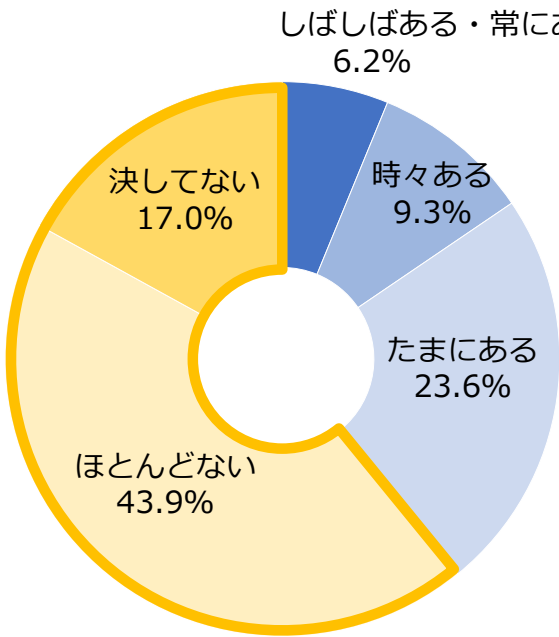
回答数 454人



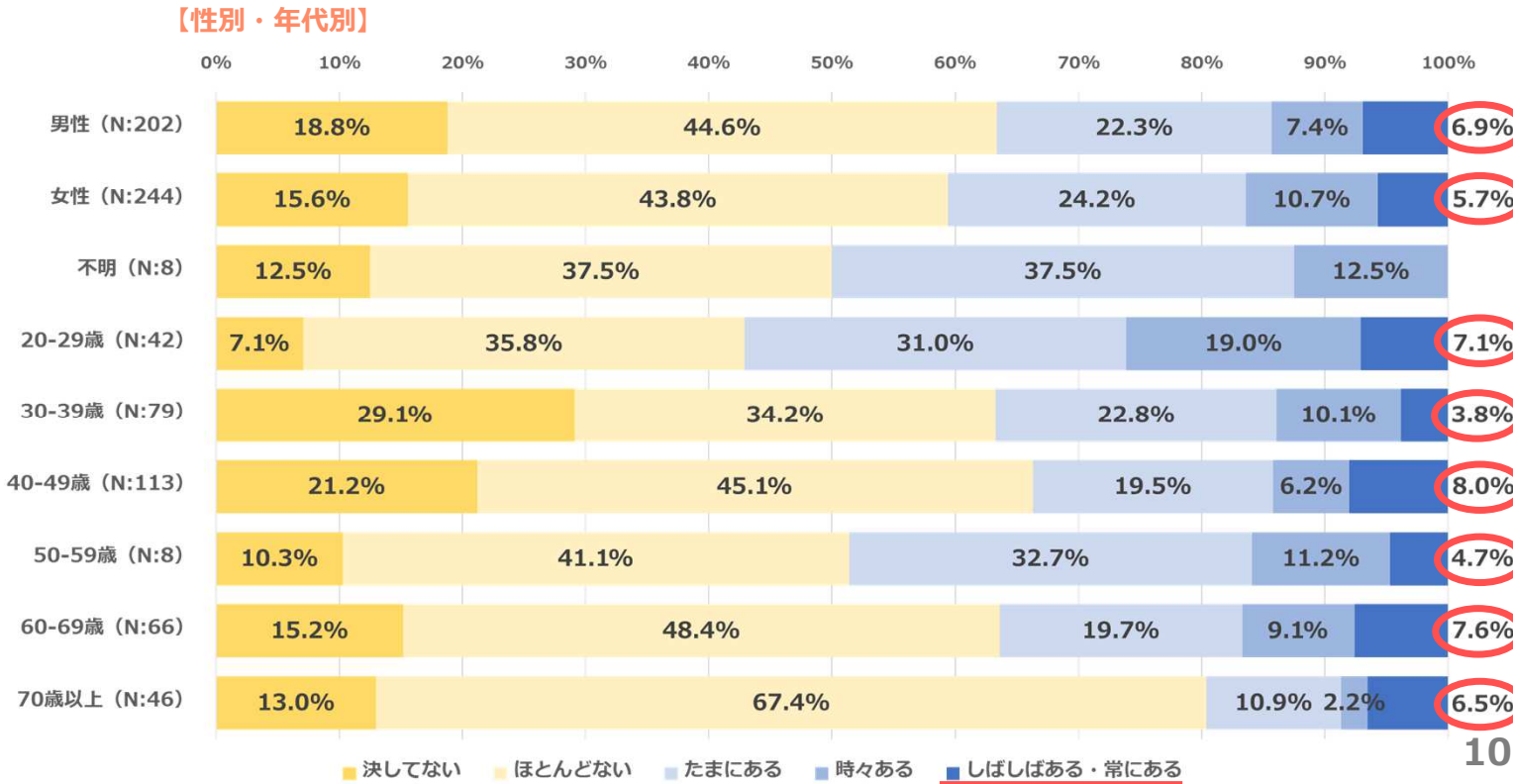
◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (2) 地域の支え合いに関する考え

⑨ 孤独と感ずる程度

- ◆ **6割の方**は孤独であると感じることが「決してない」、「ほとんどない」
- ◆ 一方で孤独であると感じることが「しばしばある・常にある」方が各年代一定数存在する



回答数 454人



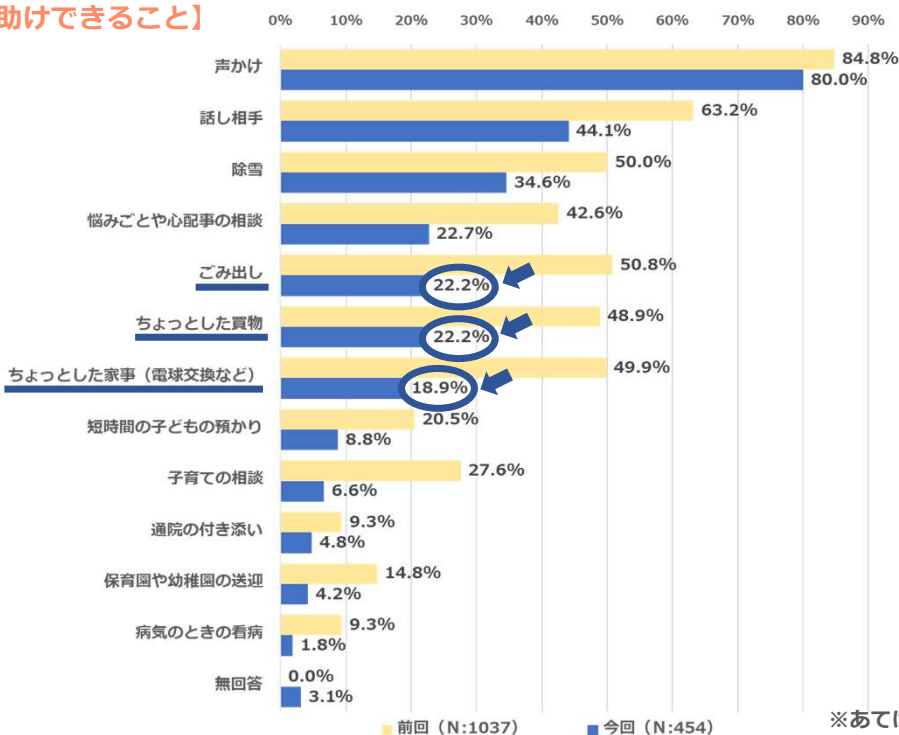
地域福祉の推進に向けたアンケート調査

◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (2) 地域の支え合いに関する考え

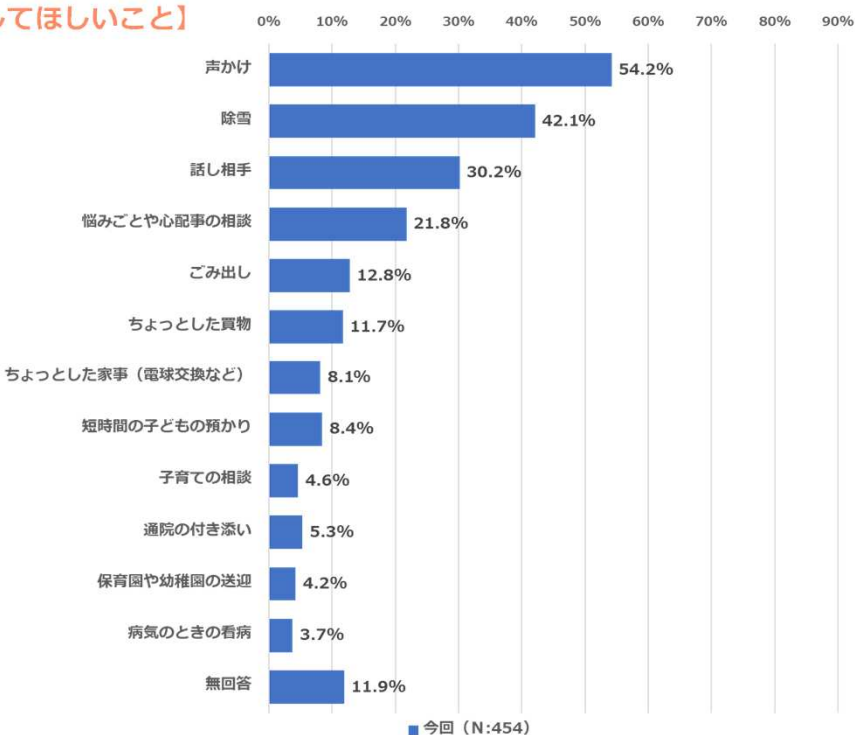
⑩ 隣近所の困っている人に手助けできること・隣近所の人に手助けしてほしいこと

- ◆ 「隣近所の困っている人に手助けできること」は前回に比べ全ての項目で手助けできる割合が減少
特に「ごみ出し」、「ちょっとした買物」、「ちょっとした家事」は大幅に減少
- ◆ 「隣近所の人に手助けしてほしいこと」は「声かけ」が最も多く、次いで「除雪」、「話し相手」となっている

【手助けできること】



【手助けしてほしいこと】

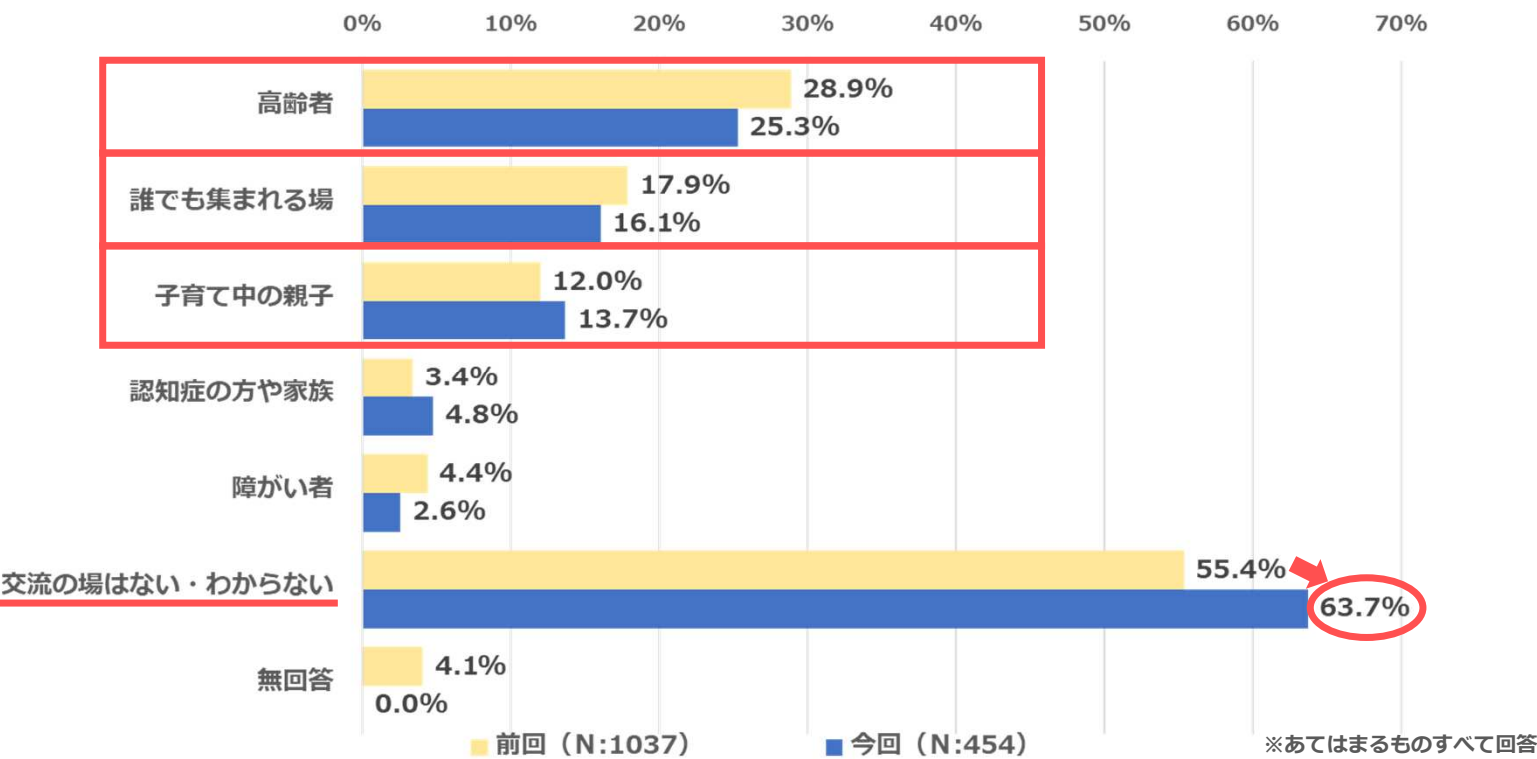


※あてはまるものすべて回答

◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (2) 地域の支え合いに関する考え

⑪地域の交流の場

- ◆ 前回同様、「高齢者」の交流の場の認知度が最も多く、次いで「誰でも集まれる場」、「子育て中の親子」となっている
- ◆ 前回に比べ「交流の場はない・わからない」方が8.3ポイント上昇



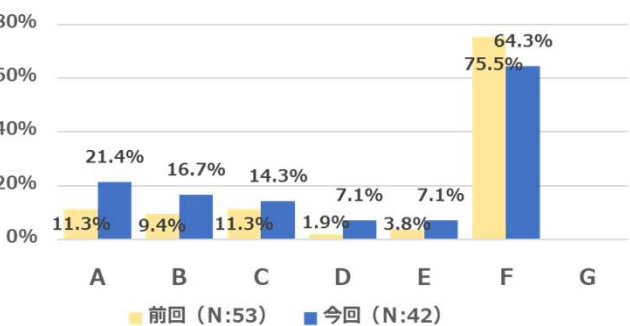
地域福祉の推進に向けたアンケート調査

◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (2) 地域の支え合いに関する考え

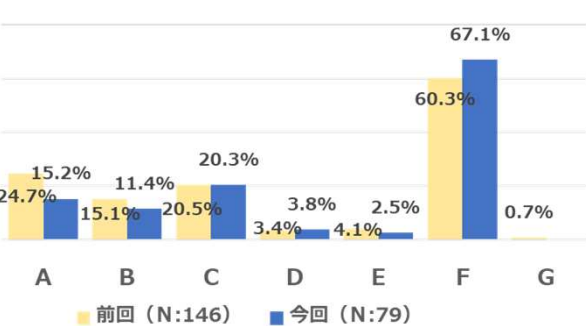
⑪地域の交流の場 【年齢別】

- ◆すべての年代において「交流の場はない・わからない」と回答した割合が最も高い
- ◆「**20～29歳**」では、すべての項目で地域の交流の場の認知度が前回に比べ高くなっている

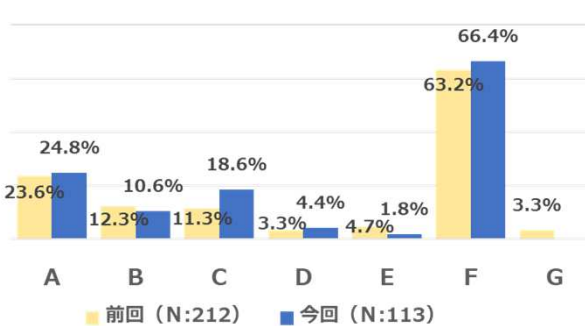
【20～29歳】



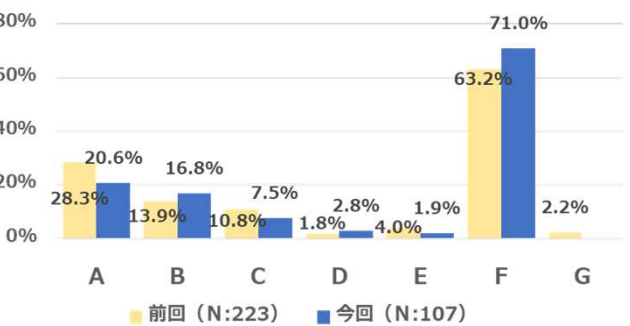
【30～39歳】



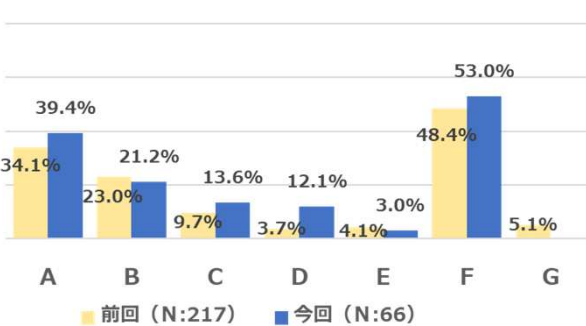
【40～49歳】



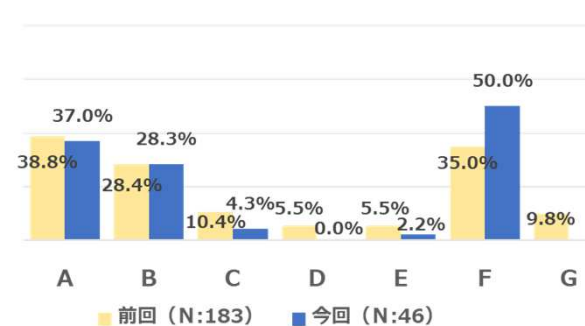
【50～59歳】



【60～69歳】



【70歳以上】

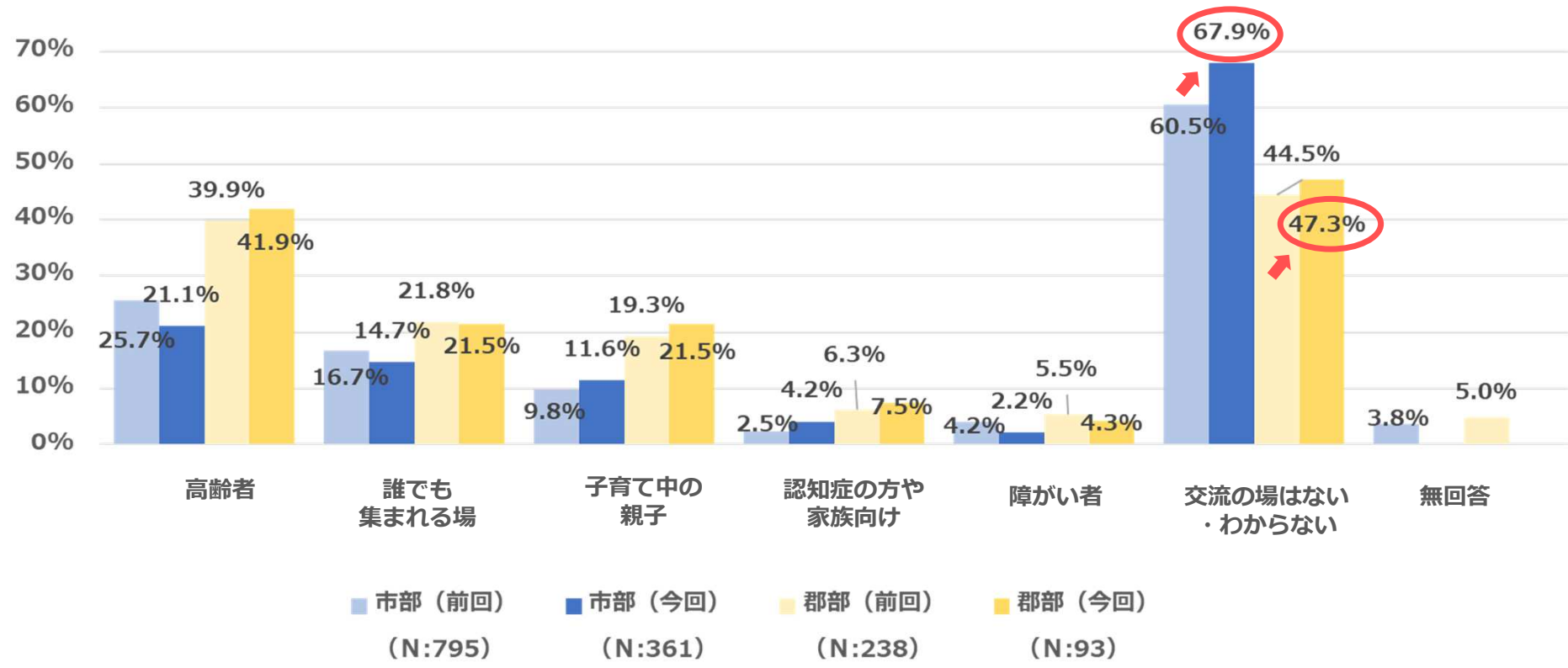


- A 高齢者
- B 誰でも集まれる場
- C 子育て中の親子
- D 認知症の方や家族
- E 障がい者
- F 交流の場はない・わからない
- G 無回答

◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (2) 地域の支え合いに関する考え

⑪地域の交流の場 【市・郡別】

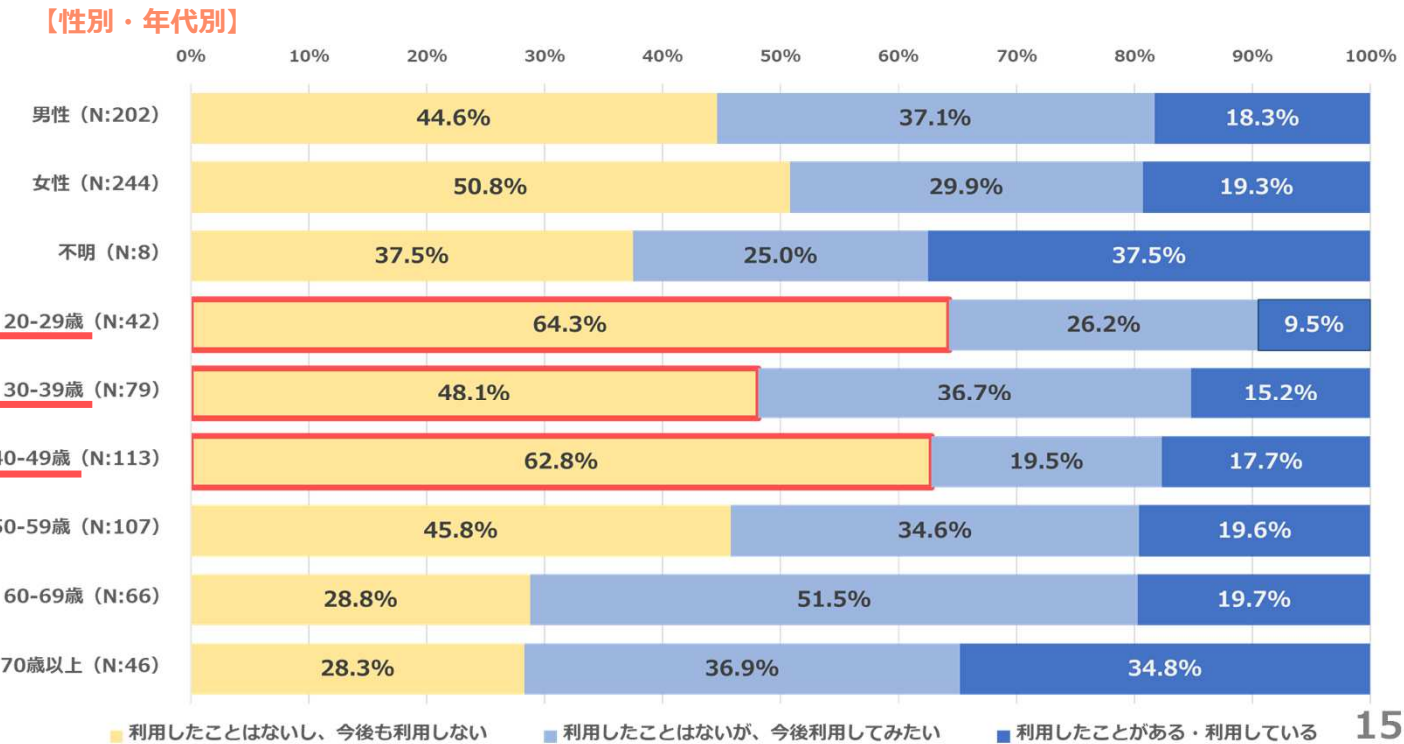
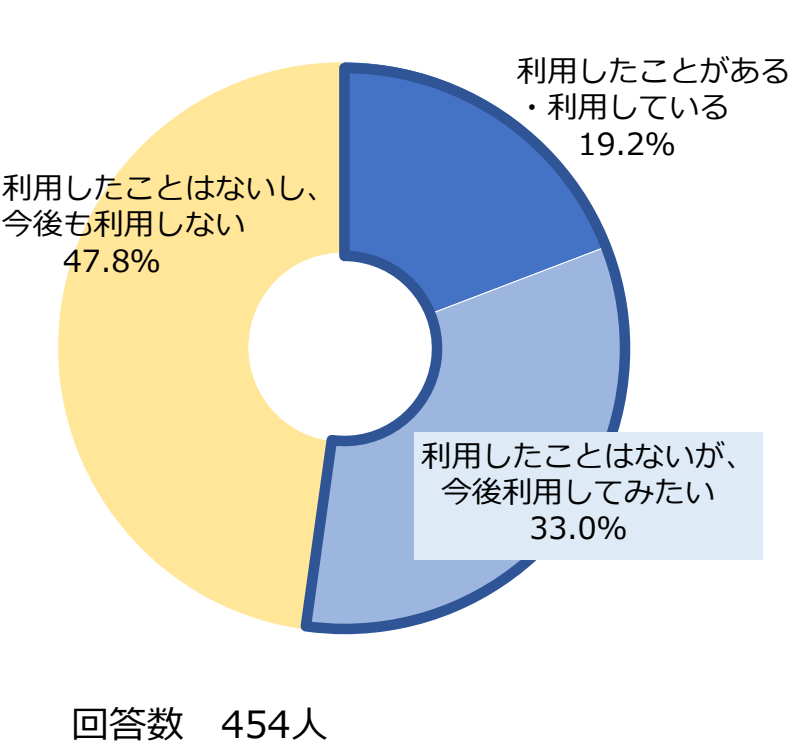
- ◆地域の交流の場の認知度について市・郡別に見ると、交流の場を知っている割合は、市部より郡部が高い
- ◆市部・郡部ともに、前回に比べ「交流の場はない・わからない」と回答している割合が高い



◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (2) 地域の支え合いに関する考え

⑪- 1 地域の交流の場の利用状況

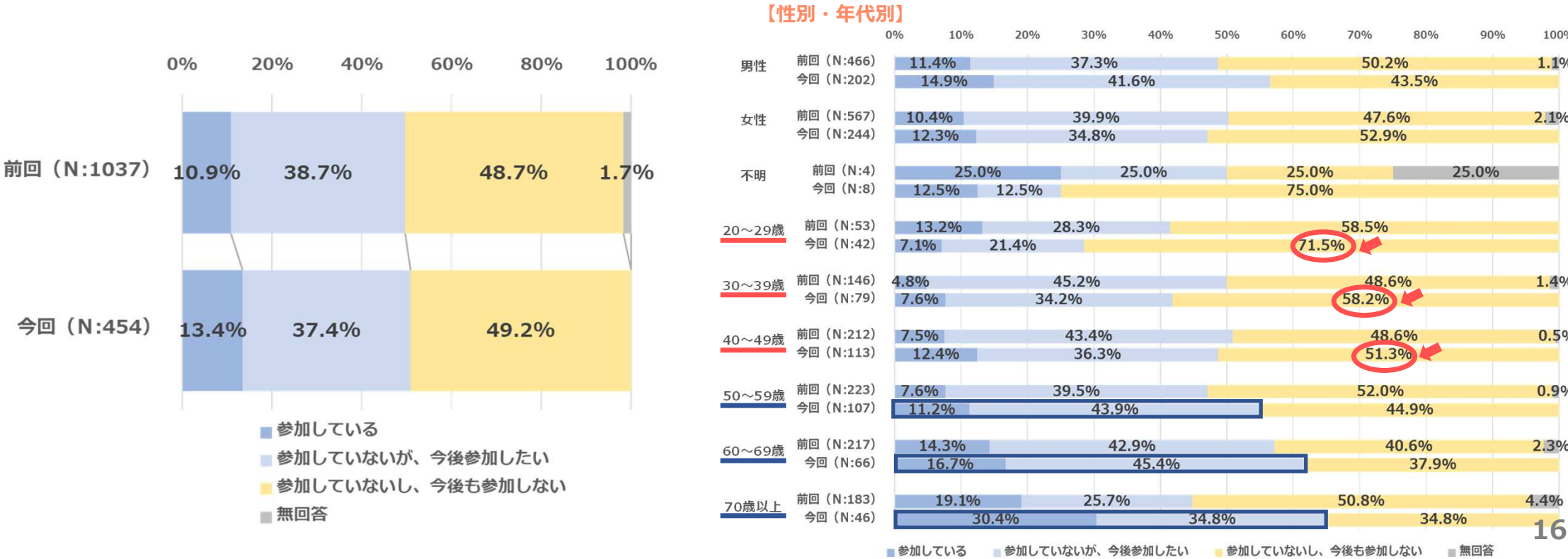
- ◆ 「利用したことはないし、今後も利用しない」が最も高くなっているが、「利用したことがある・利用している」、「利用したことはないが、今後利用してみたい」を合わせると52.2%であり過半数を超えている
- ◆ 若い世代ほど「利用したことはないし、今後も利用しない」が高くなっている



◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (3) ボランティア活動

⑫ ボランティアの参加状況

◆全体で見ると「参加している」、「参加していないが、今後参加したい」、「参加していないし、今後も参加しない」の割合は前回と同様の傾向だが、年代別に見ると、20～49歳では「参加していないし、今後も参加しない」、50～70歳以上では「参加している」・「参加していないが、今後参加したい」の割合が前回より上昇

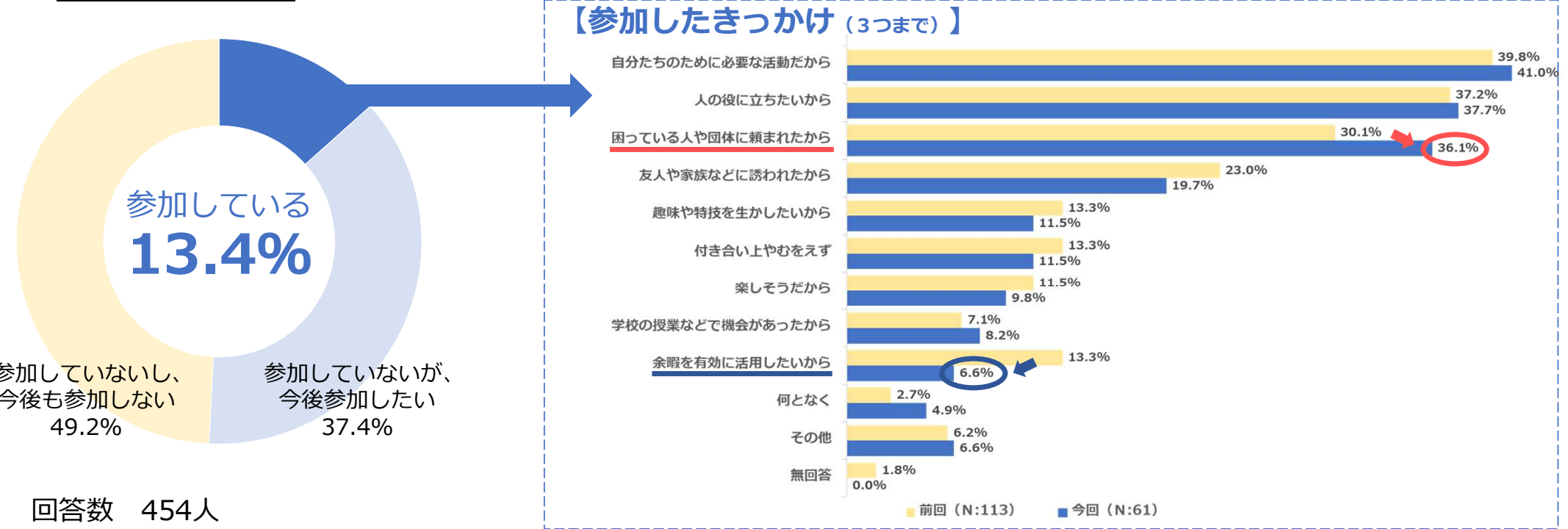


地域福祉の推進に向けたアンケート調査

◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (3) ボランティア活動

⑫- 1 ボランティアへ参加したきっかけ

- ◆ ボランティアへ参加したきっかけは「自分たちのために必要な活動だから」が最も多く、次いで「人の役に立ちたいから」、「困っている人や団体に頼まれたから」であり前回と同様
- ◆ 前回に比べ「困っている人や団体に頼まれたから」は6.0ポイント上昇、「余暇を有効に活用したいから」は6.7ポイント減少

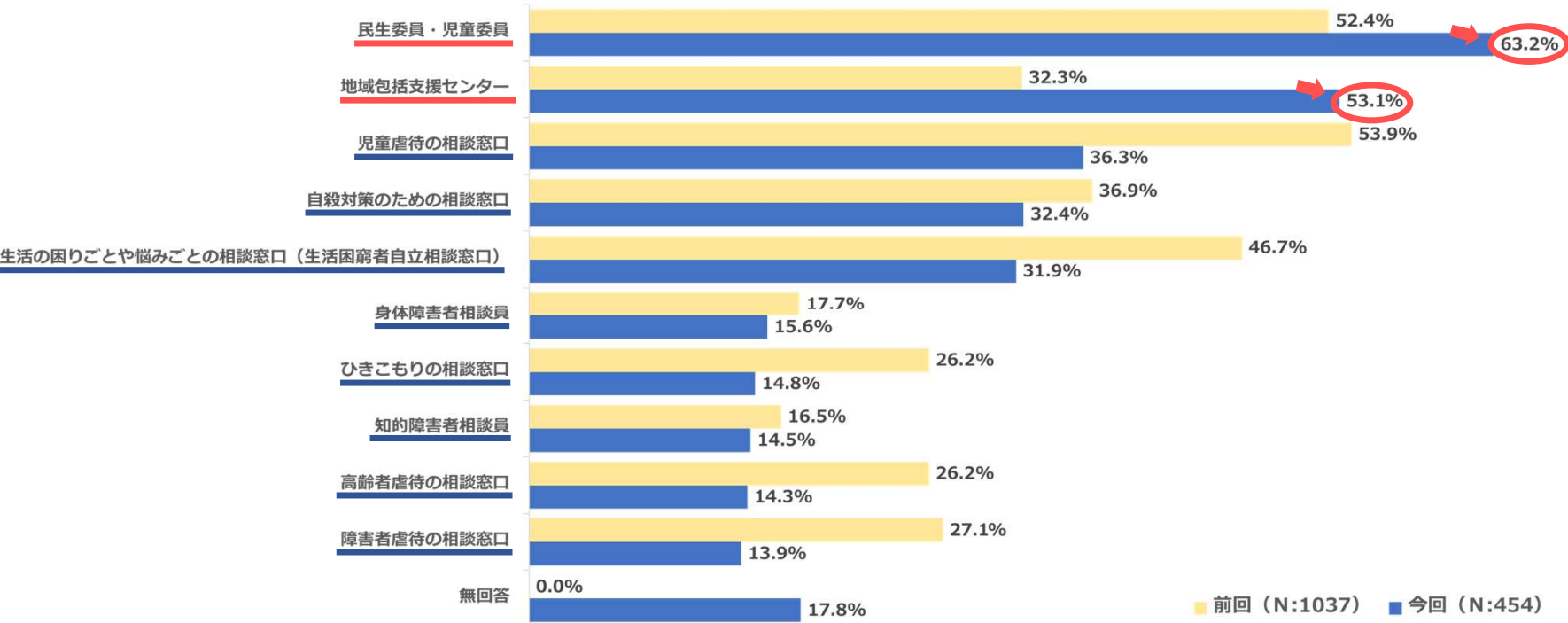


地域福祉の推進に向けたアンケート調査

◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (4) 相談窓口

⑬知っている相談窓口

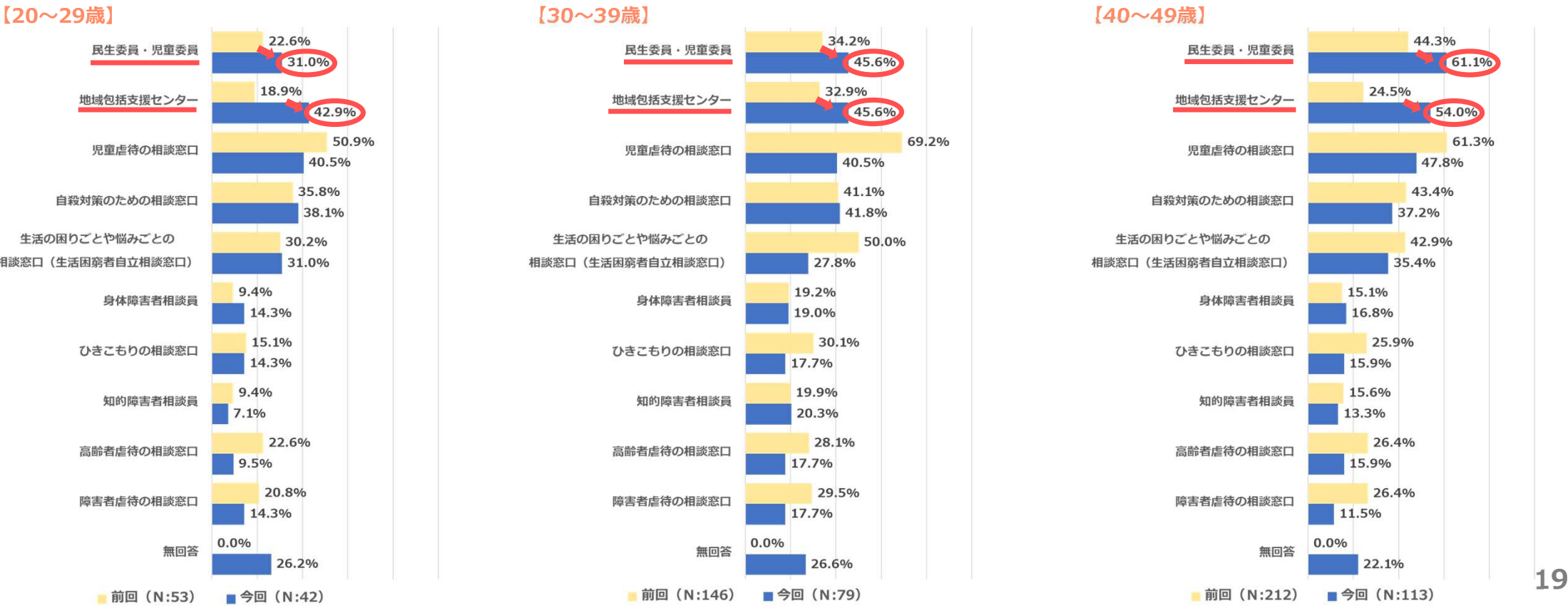
- ◆ 「民生委員・児童委員」の認知度が最も多く、次いで「地域包括支援センター」、「児童虐待の相談窓口」、「自殺対策のための相談窓口」、「生活困窮者自立相談窓口」の順となっている
- ◆ 前回に比べ「民生委員・児童委員」、「地域包括支援センター」の認知度が上昇しているが、それ以外の項目では認知度が減少している



◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (4) 相談窓口

⑬知っている相談窓口 【年齢別①】

◆ すべての年代で「民生委員・児童委員」、「地域包括支援センター」の認知度が上昇している

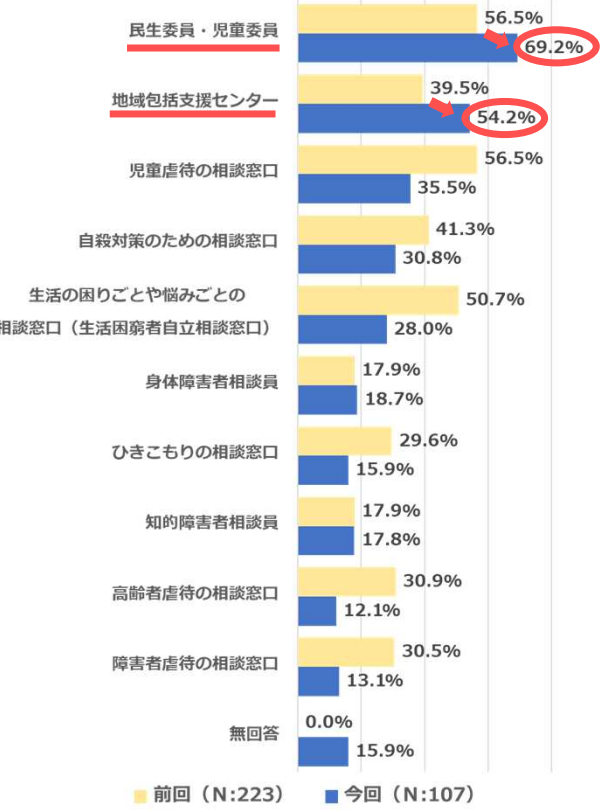


◆ 調査結果 1 住民意識の向上 (4) 相談窓口

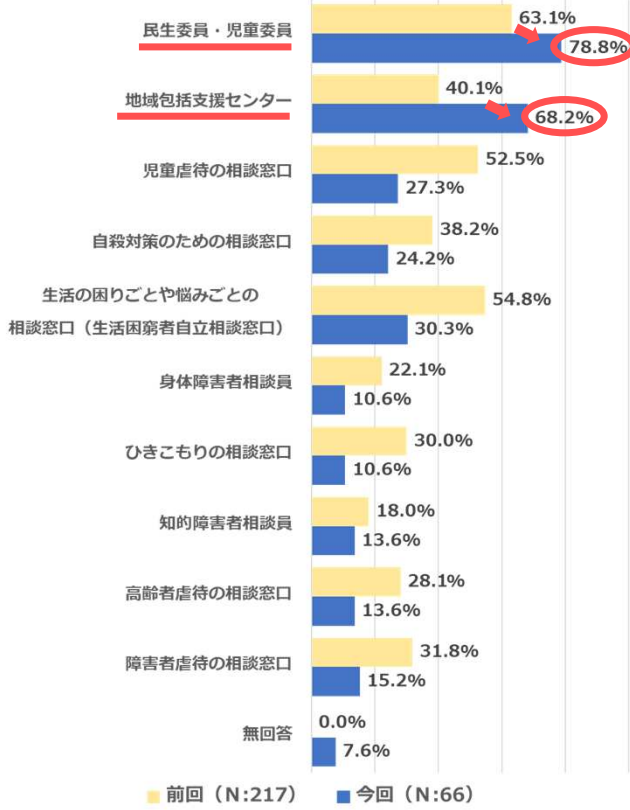
⑬知っている相談窓口 【年齢別②】

◆すべての年代で「民生委員・児童委員」、「地域包括支援センター」の認知度が上昇している

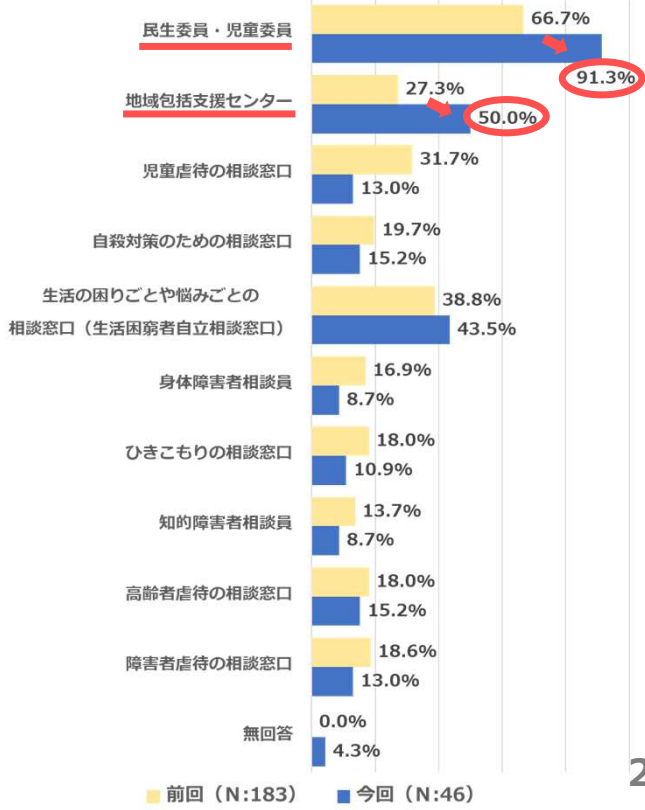
【50～59歳】



【60～69歳】



【70歳以上】

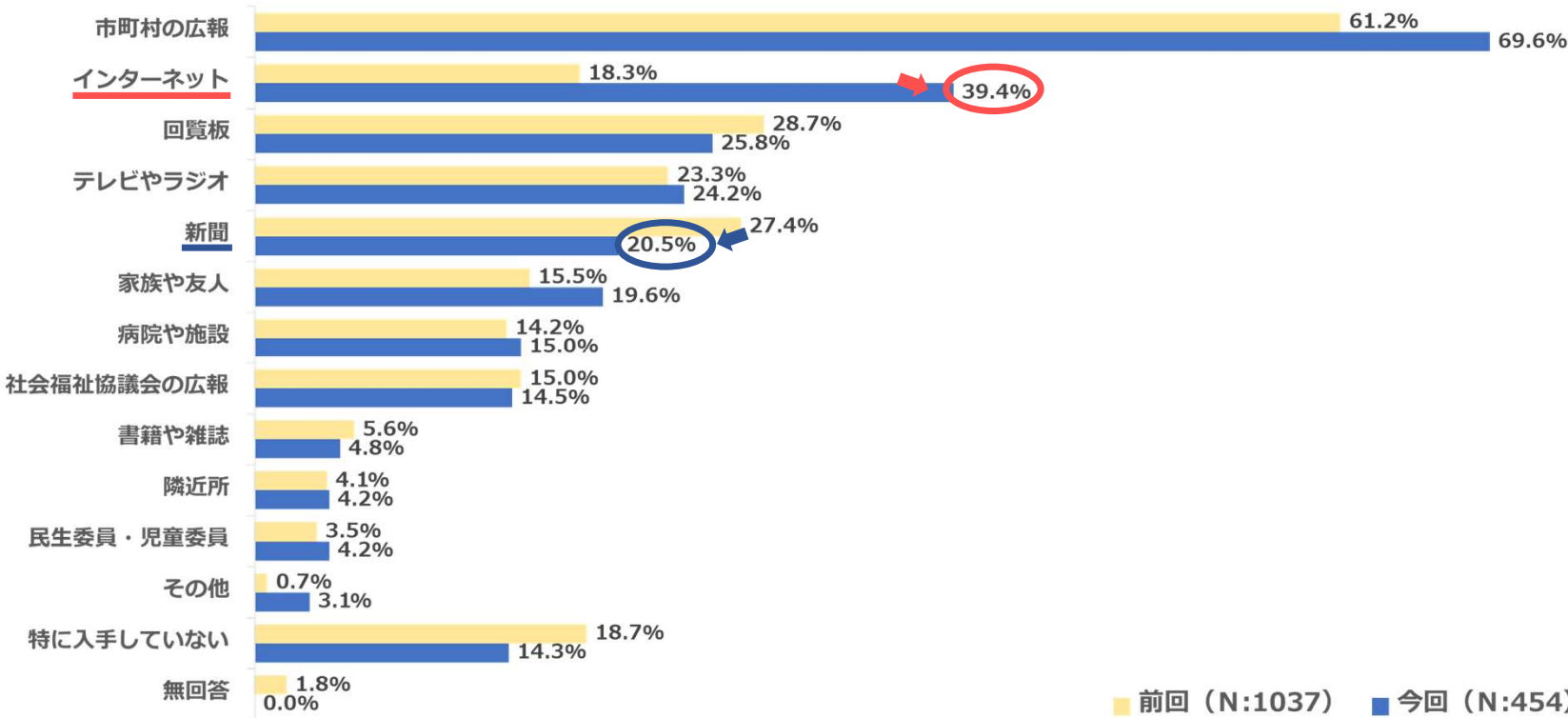


地域福祉の推進に向けたアンケート調査

◆ 調査結果 2 地域環境の変化 (5) 福祉に関する情報・今後の地域福祉のあり方

⑭福祉に関する情報の入手先

- ◆「市町村の広報」が最も多く、次いで「インターネット」、「回覧板」の順となっている
- ◆前回に比べ、「新聞」を情報の入手先とする割合は減少し、「インターネット」の割合が2倍以上高くなっている

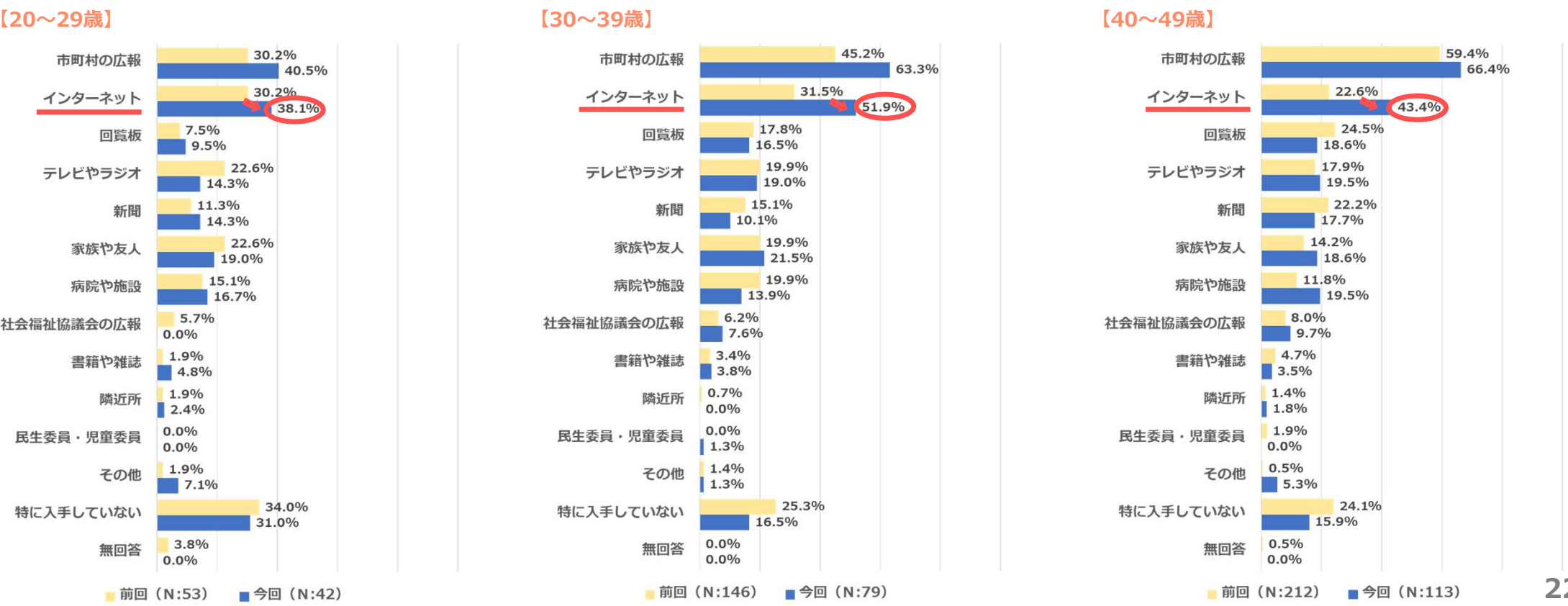


地域福祉の推進に向けたアンケート調査

◆ 調査結果 2 地域環境の変化 (5) 福祉に関する情報・今後の地域福祉のあり方

⑭福祉に関する情報の入手先 【年齢別①】

◆ すべての年代で「インターネット」と回答した割合が増加している



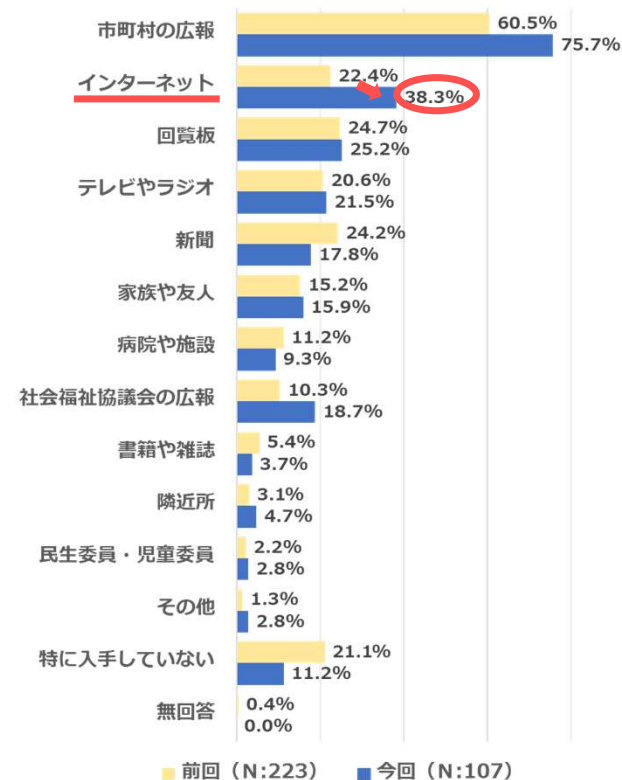
地域福祉の推進に向けたアンケート調査

◆ 調査結果 2 地域環境の変化 (5) 福祉に関する情報・今後の地域福祉のあり方

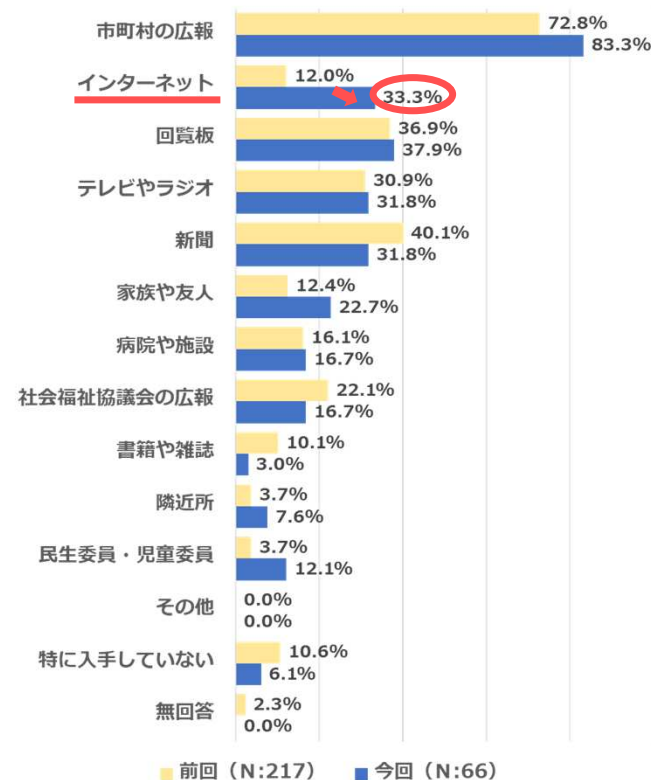
⑭福祉に関する情報の入手先 【年齢別②】

◆すべての年代で「インターネット」と回答した割合が増加している

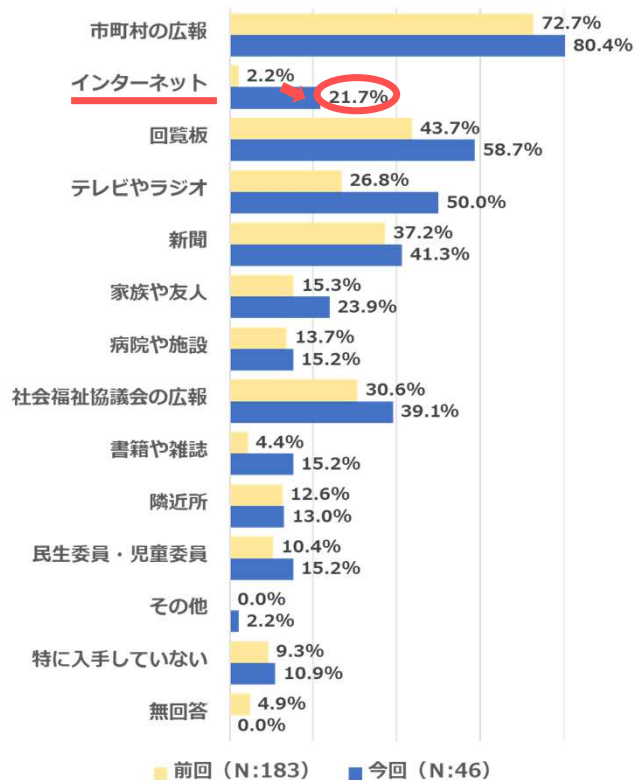
【50～59歳】



【60～69歳】



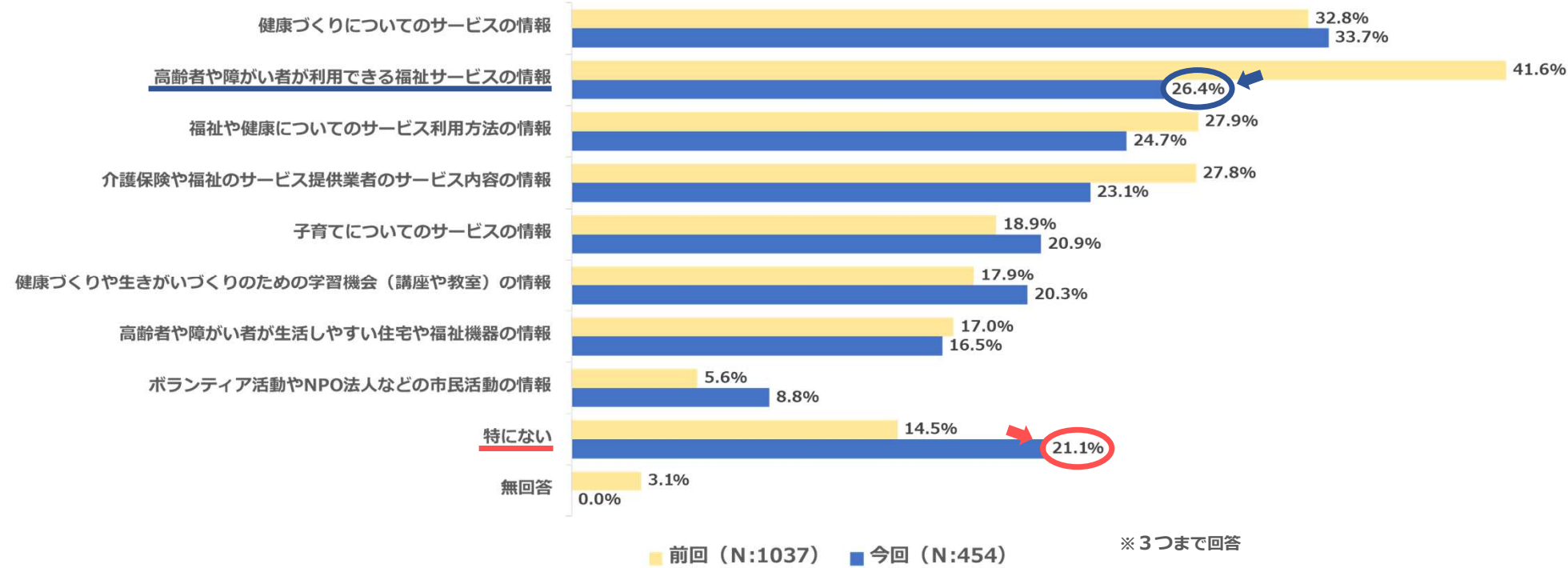
【70歳以上】



◆ 調査結果 2 地域環境の変化 (5) 福祉に関する情報・今後の地域福祉のあり方

⑮ 知りたい福祉や健康の情報

- ◆ 「健康づくりについてのサービスの情報」が最も多く、次いで「高齢者や障がい者が利用できる福祉サービスの情報」、「高齢者や障がい者が生活しやすい住宅や福祉機器の情報」の順となっている
- ◆ 前回に比べ、「高齢者や障がい者が利用できる福祉サービスの情報」は15.2ポイント減少、「特にない」が6.6ポイント上昇



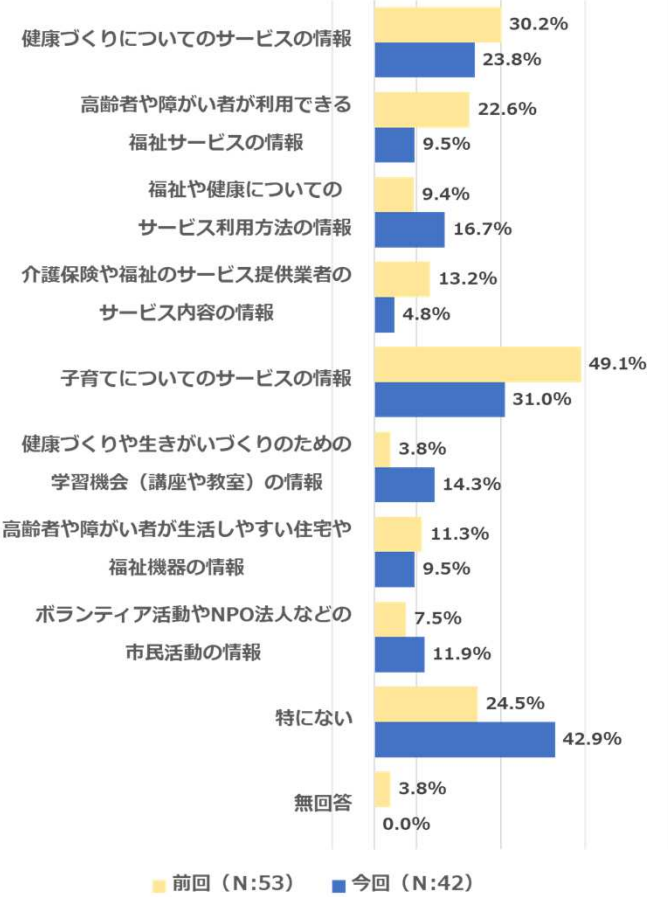
地域福祉の推進に向けたアンケート調査

一般県民向け

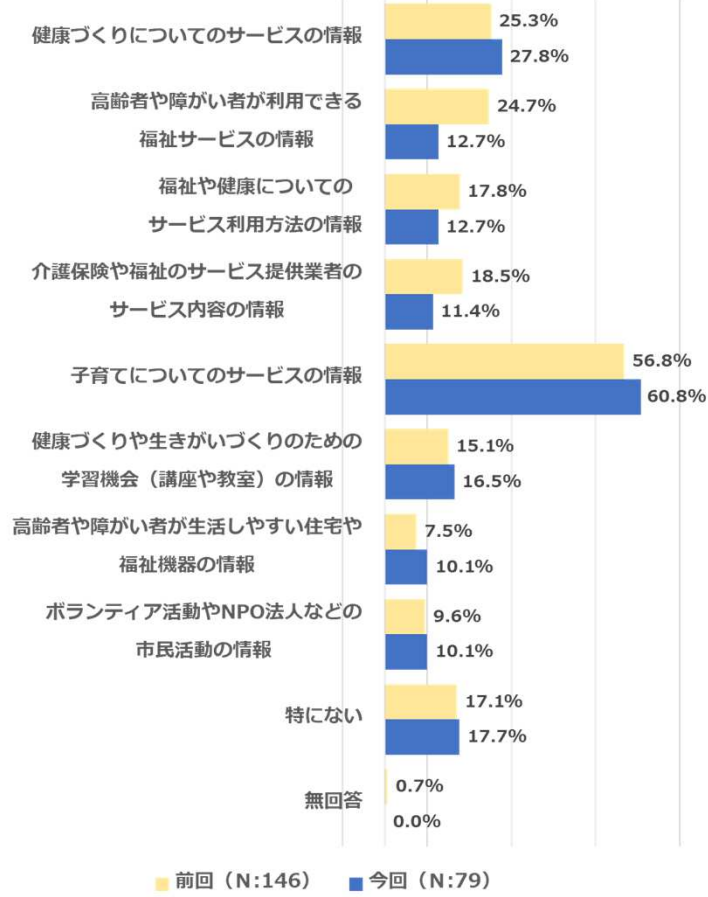
◆ 調査結果 2 地域環境の変化 (5) 福祉に関する情報・今後の地域福祉のあり方

⑮ 知りたい福祉や健康の情報 【年齢別①】

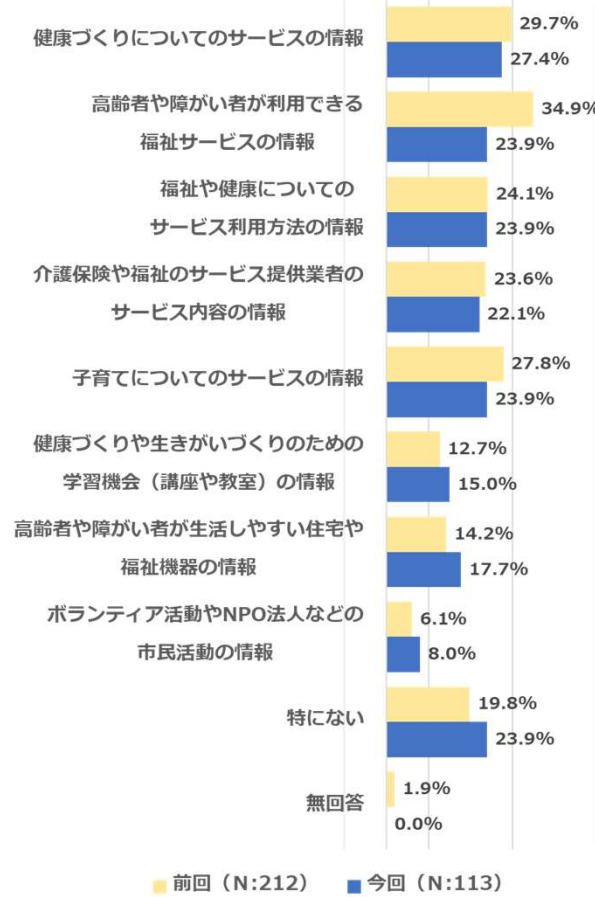
【20～29歳】



【30～39歳】



【40～49歳】

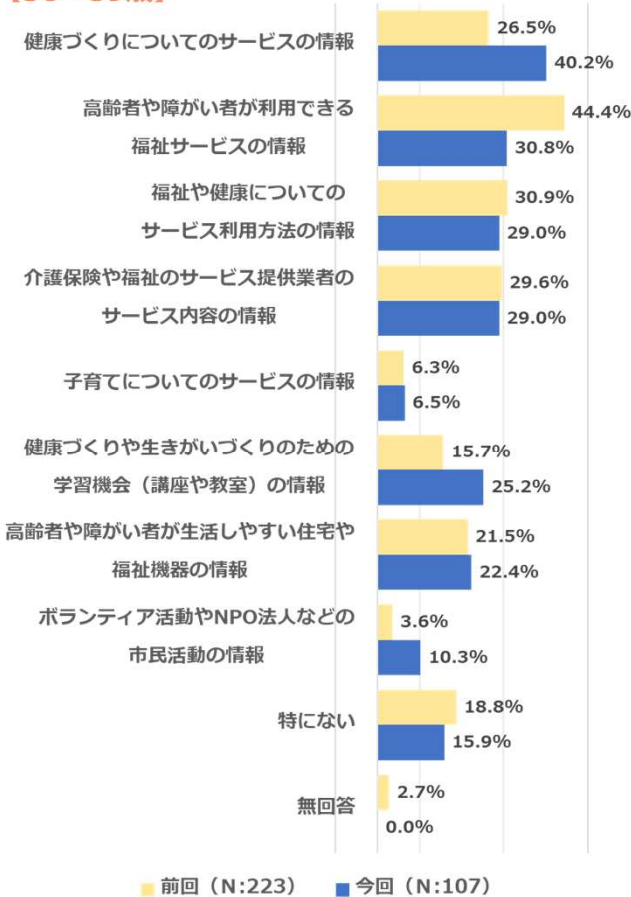


地域福祉の推進に向けたアンケート調査

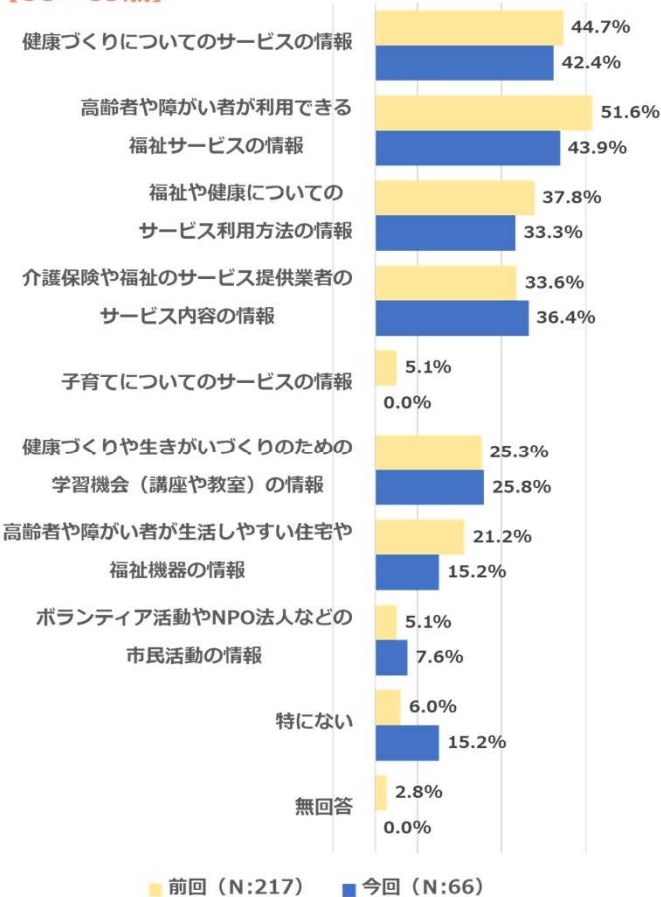
◆ 調査結果 2 地域環境の変化 (5) 福祉に関する情報・今後の地域福祉のあり方

⑮ 知りたい福祉や健康の情報 【年齢別②】

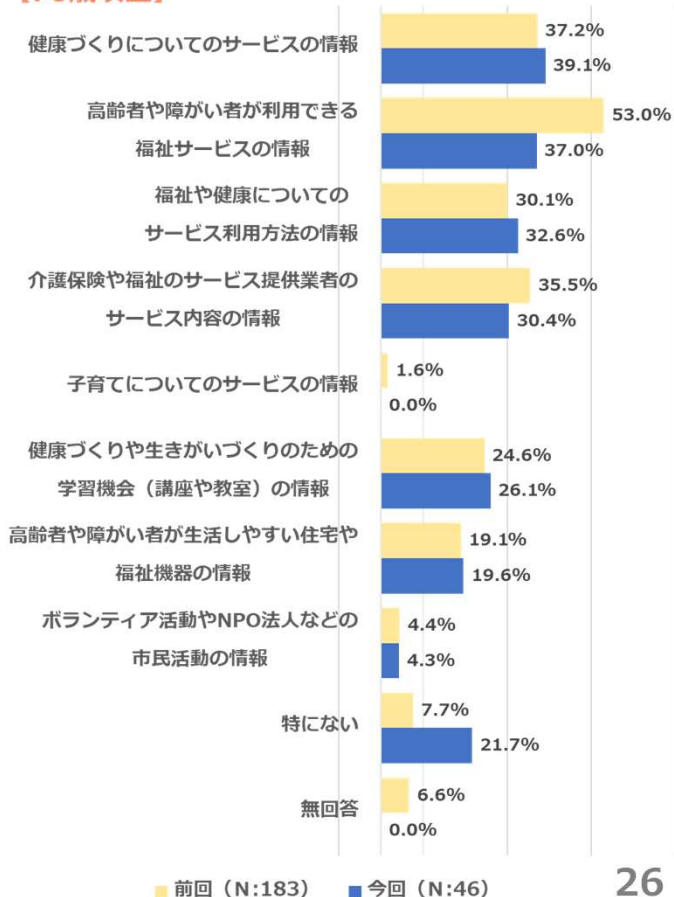
【50～59歳】



【60～69歳】



【70歳以上】

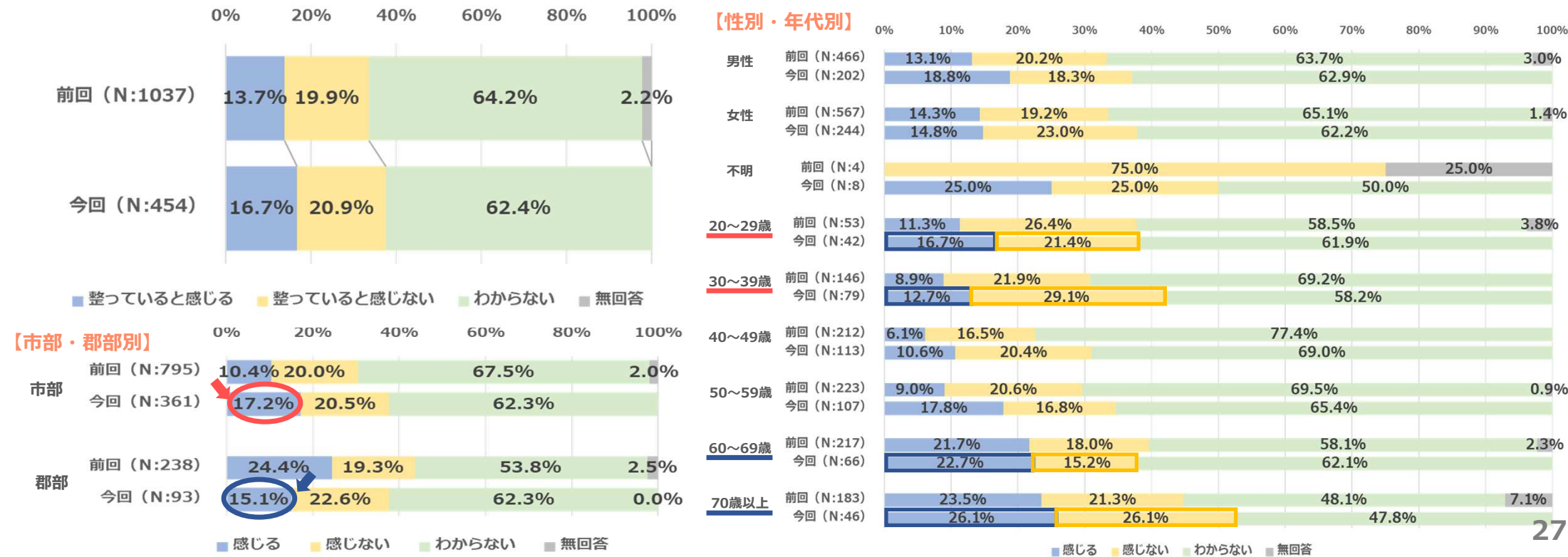


◆ 調査結果 2 地域環境の変化 (5) 福祉に関する情報・今後の地域福祉のあり方

⑬地域における福祉サービス提供体制の状況

◆ 「20～49歳」は福祉サービスの提供体制が整っていると「感じる」より「感じない」割合が高く、「60～70歳以上」は福祉サービスの提供体制が整っていると「感じない」より「感じる」割合が高い

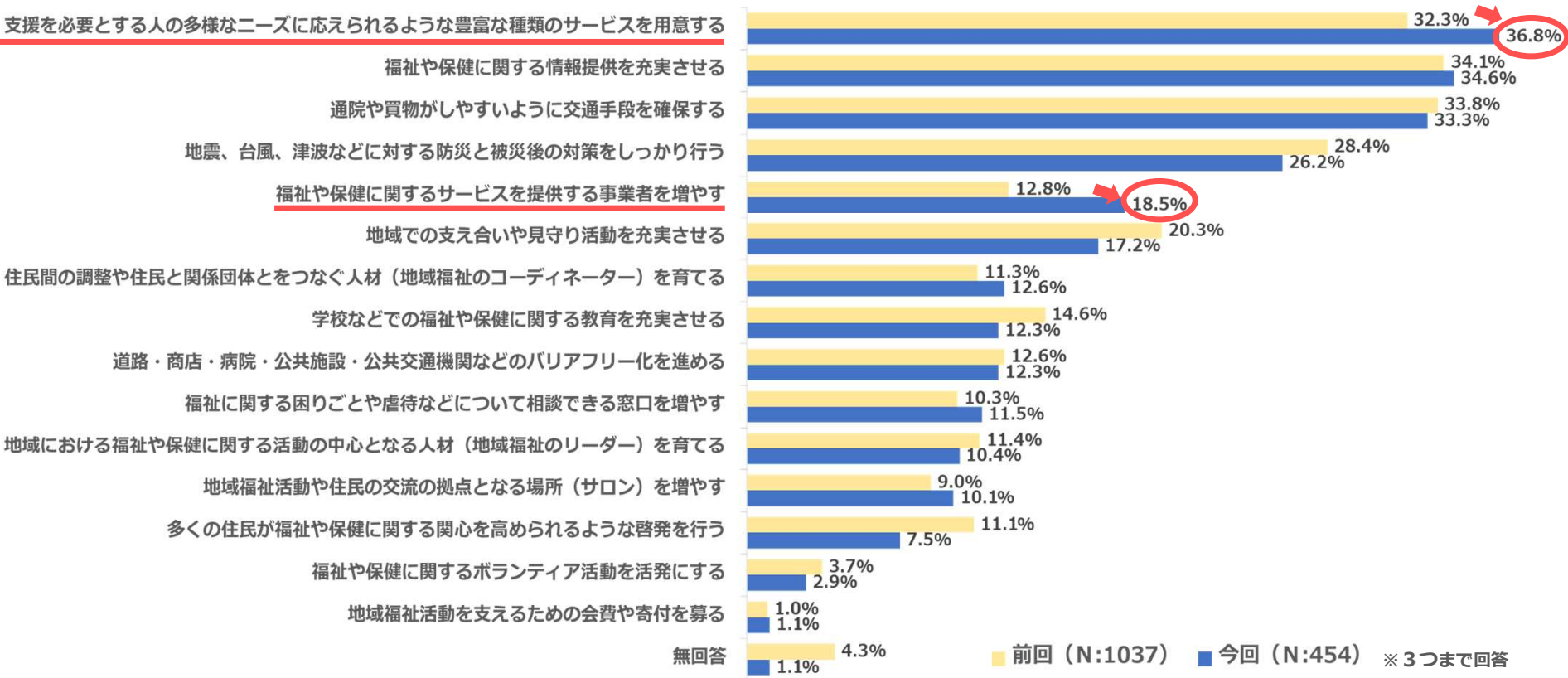
◆ 前回に比べ、市部では「感じる」割合が大きくなり、郡部では「感じる」割合が小さくなっている



◆ 調査結果 2 地域環境の変化 (5) 福祉に関する情報・今後の地域福祉のあり方

⑰ 住み慣れた地域で安心して生活するために必要なこと

◆ 前回より「支援を必要とする人の多様なニーズに応えられるような豊富な種類のサービスを用意する」、「福祉や保健に関するサービスを提供する事業者を増やす」の割合が高くなっている



◆ 調査結果 【まとめ】

地域との関わり・支え合い

地域付き合いや地域活動の減少

- ◆ 地域においてあいさつをしたり会話をする機会が減少
- ◆ 地域活動や交流の場の認知度・参加状況も減少し、特に若い世代ほど地域の交流の場を利用せず、今後も利用しないと考えている方が多い。
- ◆ 困った時に相談したり頼る相手は家族、知人・友人が中心で、困っても相談しない場合も見受けられる。
- ◆ 6割の方は孤独と感ずることがない一方で、孤独を感じている方が各年代一定数存在する。
- ◆ 近所の人へ手助けできることがないと感じている方が増加

- 家族や知人・友人以外にも相談できる場を広げ、**孤独・孤立を感じたときに相談できる機関の周知や交流できる場の創設・拡充**が必要。
- 地域における交流をきっかけに、**地域での支え合いの輪**を広げていく。

◆ 調査結果 【まとめ】

ボランティア活動

ボランティア活動への意識の低下

- ◆ ボランティアに参加している割合は前回と同様。50歳以上ではボランティア活動への参加意欲が高くなっているが、若い世代ほどボランティア活動に対し、「参加していないし今後も参加しない」と考えている割合が高い。
- ◆ 余暇を有効に活用するためにボランティア活動をしている割合が減少

- 仕事やプライベートと両立できるような活動環境づくり
- ボランティアの種類や活動内容等の更なる周知

相談窓口

相談窓口の認知度の低下

- ◆ 前回に比べ相談窓口に関する認知度が低下している。

- 相談先の周知に加え、気軽に相談しやすいツールの提供が必要

◆ 調査結果 【まとめ】

福祉に関する情報・今後の地域福祉のあり方

情報入手先の多様化

- ◆新聞や回覧から情報入手する割合が減少し、インターネットが主流となる。

→ 従来の啓発ツールに加え**インターネット・SNSを活用した情報の発信**

今後の福祉のあり方

- ◆さまざまな福祉や健康の情報を知りたいという一方で、入手したい情報は特にないと考える割合も増加
- ◆若い世代ほど、福祉サービスが整っていると感じない割合が高い。

→ 若い世代の福祉サービスの**ニーズに即した福祉サービスの提供**
→ 若い世代が**情報入手しやすいツール**を用いて福祉サービスに関する情報を発信する必要性